ライオン誌9月号2008年（平成20年）8月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可
毎月1回20日発行第51巻第3号
THE Lion
LIONS INTERNATIONAL
IN JAPAN
Official publication
of Lions Clubs
International
9
第51巻
第3号
September 2008
THEME 障害者自立支援
バリアフリーな共生社会を
実現するために

THE LION MAGAZINE IN JAPAN
September 2008, Vol.51 No.3

We Serve CONTENTS

2008年9月号　表紙
群馬県嬬恋村
高原キャベツ
■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

THEME　障害者自立支援　「バリアフリーな共生社会を実現するために」

「支え合い」の地域づくりを目指して
～ノーマライゼーションからインクルージョンへ～

■石渡和実（東洋英和女学院大学教授）

1．国際障害者年とノーマライゼーション

1981年、国連は「完全参加と平等」をテーマに、この年を国際障害者年と定めた。障害がある人の福祉は、親亡き後も安心して暮らせる入所施設を建設することから始まった。しかし、障害者だけの隔離された生活では生きがいも希望も持てず、閉鎖された空間では許しがたい人権侵害さえしばしば起こることになった。

50年代に北欧で、障害がある人もない人も地域で共に生きるという「ノーマライゼーション」の理念が生まれ、これを実現するための世界的な取り組みとして1981年、「国際障害者年」が位置付けられた。そして更に継続的な促進を図るため、83～92年、「国連・障害者の10年」が展開されたのである。

写真／田中勝明

■筆者プロフィール

石渡和実（いしわた・かずみ）

東洋英和女学院大学人間科学部教授。専門は障害者福祉論。日本成年後見法学会理事、日本障害者協議会理事・政策委員長他、障害者・高齢者のさまざまな権利擁護活動に携わる。著書に『新版社会福祉士養成講座　障害者福祉論』（分担執筆、中央法規、2007年）、『「当事者主体」の視点に立つソーシャルワーク　はじめて学ぶ障害者福祉』（編著、みらい、2007年）等がある。

2. 障害者運動と自立概念の変化

我が国でも「障害者の10年」で、特に障害者自身の意識や行動が大きく変わった。それまで自立とは、働いて自分で生計を立てる「経済的自立」とされ、前提として着替えや食事が自分で出来る「身体的自立」が求められていた。しかし、重度の障害があってそれが困難な人々は「社会のお荷物」などと言われ、社会の片隅でひっそりと生きるしかなかったのである。

国際障害者年を機に、重度障害者による「自立生活運動」が世界中に広がった。「労働だけが社会貢献ではない。超高齢社会を迎えるに当たり、重度の障害を持ち多くの人に支えられて生きてきた自分たちだからこそ、これからの社会、福祉や医療がどうあるべきかについて的確な提言が出来る。これも重要な社会的役割である」。こうした認識に立って活動し、多くの専門家や市民の共感を得て、「自立概念のコペルニクス的転換を果たした」とさえ言われる。

自立とは、障害ゆえに困難なことには支援を受けても、自己決定に基づき自分らしい生き方を貫くこと、という考え方を打ち出した。むしろ「精神的自立」「自律」が重要であり、こうした自立観に立てば、高齢になって介護を必要としても認知症となっても、個人の尊厳を保ち、最期まで人生の主人公であり続けることが出来る。

2000年4月、高齢者福祉では介護保険制度がスタート。福祉サービスも措置から契約へと移行。障害分野では03年に支援費制度となり、やはり契約の時代を迎えた。こうした新しい福祉の在り方が検討されたのが、97年からの社会福祉基礎構造改革で、「新しい社会福祉の理念」が強調された。自分の努力だけでは自立した生活が維持出来ない場合は、社会連帯に基づいて支援する。社会福祉の理念とは、「個人が人としての尊厳をもって、家庭や地域の中でその人らしい自立した生活

が送れるように支援すること」となった。こうして、支援を受けての自立生活が法的にも認知され、00年5月の社会福祉法の改正につながっていく。

3．障害者福祉の動向と自立支援

(1)「グランドデザイン案」の登場

03年に支援費制度がスタートし、半年もたたないうちに財源不足が大きな話題となった。外出支援のヘルパー利用などが増大して大きな予算不足を生じ、「支援費制度の破綻」といった言葉さえ飛び交うようになった。

そこで04年10月、厚生労働省から「今後の障害保健福祉施策について〜改革のグランドデザイン案〜」が出される。これは以下の3本の柱からなる。①これまで身体、知的、精神と、障害種別で格差が大きかった福祉サービスを一元化する、②障害者を「弱者」ではなく、必要な支援を受けて自己実現・社会的貢献を果たす主体的な存在と位置付ける、③制度の持続可能性の確保。

2点目はまさに新しい自立観が盛り込まれた画期的な視点と評価出来る。

しかし、この案の最大の目的は3点目、すなわち介護保険との統合により、障害者福祉サービスを維持する財源を保険料から確保することにあったと言わざるを得ない。同案は経済界や市町村長会などの反対もあり、04年12月には見送りとなり、05年2月に、「障害者自立支援法案」が新たに登場してくるのである。

(2)障害者自立支援法の理念と課題

第1条「目的」には、「障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重して暮らすことの出来る地域社会の実現に寄与する」と謳われている。当時厚生労働省も「この法律は財源確保のために登場したとばかり言われるが、本来の目指すところは、障害がある人もない人も暮らしやすい町づくり、地域福祉の推進である」と強調していた。

確かに障害者自立支援法は、①法律の目的、②「自立」概念の再構築、③施設・病院から地域への移行の強調、④施設体系・事業体系の再編成、⑤相談機能の重視、など評価出来る点も多くある。一方で課題も多く、サービス量に応じて1割の利用料を徴収する「応益（定率）負担」に批判が集中した。障害が重くて働くことが出来ない人ほど、多くの負担を背負うことになるからだ。必要性が高くても、収入が少なければ利用を控えざるを得なくなるのは明らかだった。

「応益負担」に関しては、福祉サービスは「利益」なのか、という根本的な疑問も提起された。論議の発端は社会保障審議会の福島智委員の発言である。彼は東京大学先端技術センター准教授として活躍し、自らを「盲聾者」と称して発信を続けている。「私は盲聾で、外を歩くことやコミュニケーションに支援を必要とする。外を歩くために健常者はお金が掛からないのに、障害者には掛かる。障害者へのサービスであるガイドヘルパーを頼むのに、応益だからとお金を取られる矛盾。障害者になったのは自然災害と同じで、本人に責任が問われるものではない」。この発言を機に、厚生労働省は「応益負担」ではなく「定率負担」という言葉を用いるようになる。

(2)法施行の影響と就労自立

障害者自立支援法が施行されてから、通所の日数を減らす、ヘルパー利用を控えるなど、利用抑制は確実に広がり、憲法で保障する「生存権」すら脅かさ

北海道伊達市の水産加工会社、中井英策商店（及川昌弘社長：伊達ライオンズクラブ）の工場では、障害を持つ川勝納さん（42／勤続22年）と郡司寛之さん（30／勤続10年）の2人が働いている→関連記事8ページ

れると、訴訟の動きも出てきた。また、障害者から徴収する利用料に影響するからとして、事業所の報酬単価も低く抑えられた。経営努力といった範囲を超え、閉鎖に追い込まれるところもあり、職員待遇は悪化、退職する若い人や過労で倒れる人が続出している。

こうした状況に配慮し、06年12月には「特別対策」、07年12月には「緊急措置」として、利用料減免、事業者支援策などが打ち出された。しかし、「施行から2年で大きな変更が2度も行われる制度設計そのものに大きな欠陥がある」など痛烈な批判も出ている。07年12月には、自民党・公明党が「障害者自立支援法の抜本的見直し」、08年6月には民主党も障害者制度そのものを抜本的に見直す提案をしている。

一方、就労自立は確実に進展し、自立支援法が追い風になったと言われる。07年6月の障害者実雇用率は1・55%で、前年度の1・52%を大きく上回った。企業の受け入れ態勢が変わったことが、雇用を拡大したと評価されている。そして雇用されたことは、障害がある人たちの大きな自信につながっていく。新たなチャレンジへ発展し、車の免許を取得したり、仕事の必要性からフォークリフトの免許を取った事例もある。それまでの生活からは想像も出来なかった力を発揮する障害者が多い。

更に結婚や家庭生活など、雇用が人生の新しい可能性を開く契機となっていくのである。

冷暖房、上下水道などの設計・施行を行う早坂商会（早坂文雄社長：伊達ライオンズクラブ）には小笠原弘海さん（52／勤続20年）と伊藤京子さん（55／勤続5年）の2人が勤めている→関連記事11ページ

4. 障害者権利条約とインクルージョン

06年12月13日、国連本部で「障害者権利条約」が採択された。「子どもの権利条約」（89年）などに続く8番目の人権条約であり、障害者を「保護の対象」ではなく「権利の主体者」と位置付けた、画期的なものと評価されている。20カ国以上が批准し、08年5月3日に発効、いよいよこれを現実のものにしていく段階である。

条約の理念は、ノーマライゼーションの考えが発展したインクルージョンだと言われる。ノーマライゼーションが「障害のある人もない人も」と強調したのに対し、インクルージョンは地域にはさまざまな人が包み込まれて暮らしているという主張だ。

高齢者も小さな子どもも外国籍の人も、それぞれが必要な支援を受け、地域で役割を果たしている。そして、障害がある人の権利が保障されるならば、すべての人が尊重され、生き生きと暮らせる社会が実現するのだと強調している。

そのためには、地域の支え合いが重要となる。公的サービスだけでなく、見守りや助け合い、ボランティア活動など、地域住民の役割がますます大切になってくる。そして誰もが地域にかけがえのない存在となり、必要とされ、役割を果たせるようになる。そうした地域の在り方こそが求められている。

だからこそ、このような人々の思いを受け止め、声に耳を傾け、その生き方を尊重することが必要である。条約採択まで、障害がある人々は「Nothing about us without us（私たち抜きに私たちのことを決めないで）」を合言葉に活動してきた。お年寄りや子どもについても同じである。

インクルージョンのキーワードは、「多様性の尊重」だと言われる。さまざまな人を包み込み、誰もが最期まで生き生きと暮らすために、一人ひとりに対して「自立支援」が出来る地域の在り方が問われている。

地域が支え、町で暮らす

ノーマライゼーション先進地・北海道伊達市を訪ねて

「北の湘南」と呼ばれる伊達市では、多くの障害者が、町の中で暮らしている。積極的に社会に出てゆく障害者と、それを支える地域の人たち。伊達の実例をもとに、ノーマライゼーション実現の道を考える。

自分たちが死んだら、あの子はどうなるんだろう

「自分たちが、元気なうちはいいんですが、いなくなった後、あの子はいったいどうなるんだろう。それを思うと……」

ライオン及川昌弘（伊達ライオンズクラブ）はある日、社員の両親から、そんな言葉を聞いた。両親は涙ながらに語り、ライオン及川ももらい泣きをしてしまった。

ライオン及川は、高級魚キンキを使って、北海道の伝統食「飯寿(いず)し」を製造する中井英策商店の社長。会社には、自閉症の障害を持つ社員が、2人働いている。

その一人、郡司寛之さん（30歳）は勤続10年で、今年3月、西胆振心身障がい者職親会から永年勤続の表彰を受けた。郡司さん自身はもちろんだが、両親がとても喜んでいたのが印象的だった、とライオン及川は話す。

「ひろぽん（郡司さん）は自宅が工場に近いので、家族ぐるみの付き合いをしています。そんなこともあって、ひろぽんのことで、ご両親とお話しする機会も多いんです。

ある時、『いい職場に恵まれて良かった』と、ご両親に言って頂いたことが

小笠原弘海さん(52)は冷暖房、上下水道などの設計･施行を行う早坂商会に勤めて、今年でちょうど20年。この日は新築現場で配管工事に従事

ありました。私にとっては、いちばんうれしい言葉です。

もっとも、特別なことはしていないんですよ。よく、自閉症のことをご存じない方から『管理が大変でしょう』と言われますが、うちはそんな(管理)ことはしていませんし。工場にはもう一人、川勝納君という勤続22年のベテランがいますが、気をつけることといったら雰囲気作りぐらいですね。ご両親の思いもありますし、会社としても出来る限りバックアップしていきます。おさむくんもひろぽんも、会社にとってなくてはならない存在ですから」

伊達の駅に降りるとほっとする

噴火湾に面した伊達市は「北の湘南」と呼ばれ、北海道の中では穏やかな気候で知られる。先般サミットが開催された洞爺湖の南にあり、福祉の分野では「ノーマライゼーションの町」として全国区の存在だ。

伊達市では現在、多くの知的障害者が、町の中で暮らしている。人口約3万8千人のうち、知的障害を持つ人が350人。地域で暮らす障害者が、人

口の約1%を占めるというのは、全国的に見ても例がない。

具体的にグループホーム入居者の人口比で見ると、全国平均0・02%に対し、伊達は0・6%（230人）と、実に30倍となっている。しかも伊達では民間アパートで暮らす人も多く、その差は更に広がる。

もちろん、町で生活するためには収入がなければならない。その点、伊達では企業の理解度も高く、市内の600企業中約1割の56社が、障害者を積極的に雇用。障害を持つ人の約半数、160人が、民間企業に勤め、やや障害の程度が重い残りの半数も授産施設などで働き、少しではあるが、収入を得て生活をしている。

伊達では、知的障害を持つ多くの人たちが、アパートやグループホームに住み、仕事を持ち、地域にとけ込んで生活している。町を歩けば、スーパーやレストランを始め、あらゆる場所で障害を持つ人と出会う。市民も特別な視線を送ることはない。

例えば、知的障害を持つ人が、スーパーに買い物に行ったとする。欲しい物をカートに入れ、レジに並ぶ。が、金額を言われても、計算が出来ずにまごまごしてしまう。そんな時、顔見知りの店員は、財布を受け取って必要な代金を取り出してから財布を返す。後ろに並んでいる他の客は文句も言わず待っている。伊達では、こんな光景は日常茶飯事だ。

「伊達の駅に降りるとほっとする」

これは、ある母親の言葉だ。正月休みの後、伊達に戻る途中の街頭や駅、列車の中で感じた刺すような視線。が、伊達に着いた途端、そんな視線から解放されるのだという。

伊達の市民が、障害を持つ人に慣れ、特別視しなくなったのは道立太陽の園の開設がきっかけだった。太陽の園は今から40年前、開道100周年となる1968年（昭和43年）に、知的障害者の総合施設として全国に先駆けて創設された。

行政は、障害のある人は施設で保護されて暮らす方が幸せだと考え、子どもが運良く入所出来た親は「これで安心して死ねる」と喜んだ。だが、本人たちの思いは違った。「1日も早く施設を出たい。町の中で普通に暮らしたい」。多くの人がそう望んでいたのだ。

そこで、太陽の園では、入所者が施設を出て町で暮らせるよう、さまざまな取り組みを始めた。また伊達市もこれに呼応。73年、太陽の園を巣立つ人たちが「施設から地域へ」生活を移行

仕事が終わった後や休日は、だいたい部屋でテレビを見て、くつろいでいることが多いという

するための中継基地として、伊達市立通勤センター旭寮を開設した。

旭寮は、住居の確保や引っ越しの手配、仕事探し、更には恋愛の相談まで、スタッフが24時間態勢で、きめ細かく対応。これによって、太陽の園を出て、伊達の町中で暮らす人たちが飛躍的に増大した。

また、地域の人たちも積極的に支援に動き、81年には障害者に雇用の場を提供する企業経営者らによって、西胆振心身障がい者職親会が発足。受け入れ態勢を整えると共に、合同で永年勤続表彰や新規就職者のお祝い、レクリエーションなどの事業を実施している。

グループホームには食事などの家事支援をしてくれる世話人が配置されている。が、洗濯など、自分で出来る身の回りのことは、それぞれ各自でこなしている

地域全体が、障害のある人を支える町

現在、職親会の会長を務めるのは、伊達ライオンズクラブのライオン早坂文雄。市内で冷暖房、上下水道などの設計・施工の会社を経営している。

ライオン早坂の会社では、5年程前から事務所の掃除などをしてもらっている伊藤京子さんと、この3月、職親会で勤続20年の表彰を受けたばかりの小笠原弘海さんの2人が働いている。小笠原さんは、太陽の園を出て、旭寮で生活している時、ライオン早坂と出会った。

「たまたま旭寮で水道工事をしている時、弘海が興味深そうに、我々の仕事を見ていたんです。声をかけてみたら、やってみたい、と。それがきっかけで、うちで働くようになったんです」

今では職親会会長を務めるライオン早坂だが、障害を持つ人を雇用するのは初めて。結構、根気のいる仕事だった、と当時を振り返る。

「最初の5年ぐらいは大変でした。弘海くんみたいな子たちは、注意したり怒ったりした後、何かを誉めるとか、フォローしてあげることが大切なんです。時には、かっとなるようなこともありました。でも、他の従業員たちも理解があったので、その点はとてもありがたかったですね」

奥さんのきみ子さんも、そう話す。

小笠原さんも伊藤さんも、それぞれ市内のグループホームで暮らしている。伊達には、知的障害を持つ人たちが暮らす、こうしたグループホームが約50戸、更に民間アパートがやはり50戸近くある。グループホームには世話人と呼ばれる支援スタッフが一人ずつおり、食事や掃除などの家事支援や、日常生活の相談に応じている。

小笠原さんが住むグループホームには6人の男性が入っている。風呂と洗

面所、ダイニング・キッチンは共同だが、普段は各自個室で、プライバシーが保たれている。世話人はホームの近くに住む菊地栄子さん。

「とても家庭的な方で、親身になって世話をしてくださるので、弘海は恵まれていると思います。お仕事感覚ではなく、悪いところがあれば、本気になって怒ってくれますし。最近、お金を使うことを覚えたんですが、その点も菊地さんがしっかり管理してくださるので、私たちも安心しています」

と、早坂。単なる住む場、働く場ではなく、こうして心を砕いてくれる地域の人たちの存在こそが、障害を持つ人たちを支えているのだろう。

職親会ではまた、余暇活動として、和太鼓サークル「伊達武者太鼓（大楽宣夫代表）」の育成と支援も行っている。サークルは今年で結成26年目を迎え、知的障害を持つ男女15人が参加。今では地域の祭りや結婚式、更には近隣市町村や道のイベントにも招かれ、演奏を披露している。小笠原さんは発足当初からサークルに加わり、リーダー的存在として活躍している。

「弘海は寝ても覚めても太鼓でね。それはもう一生懸命です。サークルでは若手の指導もしているみたいですよ。武者太鼓は今ではかなり有名になって、あちこちからお座敷がかかっていますから、弘海にとっては大きな生きがいの一つになっていると思います」

早坂は笑顔で説明してくれた。

和太鼓の稽古に打ち込む小笠原さん。趣味の域を超えて、今や生きがいになっているようだ

町が障害のある人に慣れることこそ最も重要

伊達市では毎年10人ぐらい、障害を持つ人が増えている。これまでの流れ同様、施設を出て町で暮らし始める人もいれば、他の市町村から引っ越してくる人もいる。しかも道内にとどまらず、道外から転居してくる人もいるという。この状況を見て、だて地域生活支援センター（旧旭寮）の小林繁市所長は次のように話す。

「障害を持つ人が伊達にたくさん集まるのは、どこかに彼らを閉め出す……と言ったら語弊があるかもしれませんが、彼らが生きにくい場所があるからです。つまり障害を持つ人が1カ所に集中するのは、決して正常な状態とは言えないと思います。もし、それぞれの市町村が、彼らをしっかりと支えることが出来れば、伊達がこんなにも脚光を浴びることはなかったはずです」

では、他の市町村には何が足りないのだろう。

「伊達で、障害を持つ人たちが、これ程までたくさん暮らせるようになった背景には、もちろん本人たちのがんばりがあります。また支援者の努力もありました。しかし、いちばんの理由は、市民が、障害を持つ人たちと上手に付き合えるようになったことなんです。伊達では40年程前から、少しずつ障害のある人たちが町の中に住み、働き、そして買い物に出掛け、市民が彼らと触れ合う機会が増えてきました。その結果、お互いがごく普通に付き合えるようになり、やがて自然に交わり、伊達の町全体が、支え合う社会に変わってきたんだと思うんです。

そう考えると、障害のある人たちが施設から地域に移行して適応力をつける、つまり『障害のある人が町に慣れる』ことも大切ですが、更に重要なのは『町が障害のある人に慣れる』という視点なのではないでしょうか」

と小林所長。

新しい土地に引っ越した時、誰もが大なり小なり不安を抱えると思う。学校や会社でも、新しい環境に身を置く時は同じだろう。そんな時、隣人が、先輩が、ちょっと声を掛けてくれるだけで、不安が解消するかもしれない。

どこの自治体でも、伊達と同じような環境を、今すぐに整えることは困難に違いない。が、地域の人たちが、新しい仲間を温かく迎えることは出来るはずだ。ノーマライゼーション実現の答えは、意外と簡単なのかもしれない。伊達の町を見ると、そう思う。

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

●初級編・ライオンズクラブ入門

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●中級編・クラブ運営の基礎知識

改訂版

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●上級編・リーダーシップを養う

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

●ウィ・サーブ
日本ライオンズ半世紀の航跡

B6判 332ページ
1部800円・送料実費

●ライオニズムよ永遠に
メルビン・ジョーンズとその時代

B6判 224ページ
1部800円・送料実費

●『ライオン』誌創刊号 復刻版

B5判 68ページ
1部300円・送料実費

※『ウィ・サーブ』『ライオニズムよ永遠に』は20部以上、『ライオン』誌創刊号復刻版は50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引率＝50～299部10％／300～499部15％／500～999部20％（1,000部以上は別途割引率設定あり）

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号をお忘れなく。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………　部
●クラブ運営の基礎知識 …………　部
●リーダーシップを養う …………　部
●ウィ・サーブ …………　部
●ライオニズムよ永遠に …………　部
●『ライオン』誌創刊号復刻版 …………　部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

人が人を支える。家族の歩んだ25年

障害者家族による手記◎徳丸靖子（大阪府・堺エンゼル・ライオンズクラブ元会員）

末っ子の長男が突然倒れ、原因不明のまま第一級障害となってから25年。家族は力を合わせ、少しでも回復することを祈って在宅介護を続けてきた。日々献身的に面倒を見る両親は70歳を超え、将来への不安は高まるばかり。そんな中、5年間在籍したライオンズクラブを退会し、仕事と家族を支えることに専念すると決断した長女の徳丸靖子さんに、家族の歩みと現在の心境をつづって頂いた。

ある日何の前ぶれもなく、下校途中の弟が倒れ、心肺停止による中途障害となってから、25年が過ぎた。

当時の医師によると、このような形で突然倒れた事例は過去6件。弟は7件目ということだった。その後も生存しているのは弟のみということで、退院後自宅に戻っても、父は病院側に弟の様子を報告書という形で提出していた。だが、原因らしい原因は今も見つかっていない。

弟が倒れたのは15歳の春。やっと受験が終わり、高校に通い始めて3日目のことだった。真新しい制服を着て出掛けた弟は、突然、生死の境をさまよい、集中治療室で3カ月、一般病棟で5カ月を過ごすことになった。家族全員訳が分からず、事実を受け入れられずにいた。入院中は原因不明の不整脈が続き、8カ月後には無酸素脳症による四肢麻痺という第一級障害者となってしまった。

↑リハビリで歩けるまで回復した頃の弟・英幸さん

一人息子がなぜこんなことになったのか、やりきれない思いの父は衝動的な自殺未遂という行動に走ったこともあった。8カ月の病院生活を乗り越え、やっと自宅に帰れた時、弟の体重は60キロから35キロになっていた。自宅に戻った後も、家族は弟の回復を願い、一丸となって、苦しく残酷にさえ思えるリハビリを続けた。3年後、歩行出来るまでに回復した矢先、二度目の昏倒。「たとえ一命を取り止めても、心肺停止時間が長く、脳の受けたダメージは元には戻らない。一生寝たきりです」

医師にそう宣告された時、家族は再び地獄へ突き落とされたような気持ちだった。

◇

4年前、実家を改装する際に、母が毎日書きとめていた日記（大学ノート53冊）が納戸の奥から出てきた。それがきっかけとなり、2007年10月に私は家族の四半世紀を『生きていてくれてありがとう』という本にして出版した。

母は家族の出来事はもちろん、気温、天気、弟の体温や脈拍、血圧、体調、食事の内容、自分のつらい胸の内などを毎日毎日書きつづっていた。父はそれを、「いつまでも置いていても仕方ないから処分する」と言ったが、母はあっさりとは捨てきれず、私に相談し

英幸さんとご両親の長尾清治さん、民江さん、後列左から靖子さんと息子の翔也さん、夫のL徳丸博史（堺陵東ライオンズクラブ）。笑顔を絶やさない明るいご家族だ。年1回、英幸さんの誕生日に合わせて家族旅行に出掛けるのが恒例。条件に応じてくれる旅館探しは難しいが、日本海のカニを食べたり、温泉に入ったり、年々楽しい思い出を増やしている。徳丸さんご夫妻は、結婚後しばらくして実家から車で10分程の所に自宅を移し、介護をサポートしている

てきた。捨てればただのゴミだけれど、少しでもだれかの励みになるかもしれない。「じゃあ、私が本にするわ！」と母に約束した。そこから3年がかりで、仕事やボランティアなど忙しい合間に少しずつ母の日記を読み、文章にしていった。

◇

あの日から25年、今も当たり前のように弟の介護は続いている。朝起きて、体温、血圧、脈拍を測り、歯磨きをし、三度の食事の世話、排便やオムツ交換の他、硬直した手足の指を一本一本広げ、腕を伸ばしたり、車いすに座らせたり、正座させたりするリハビリと、するべきことは山程ある。少しでも元に戻してやりたいという思いで、父は毎日毎日リハビリを続ける。就寝後は、抵抗力のない弟がふとんを蹴ってしま

って寒くないか、オムツは濡れていないか、母の介護が夜も続く。

「介護が終わるのは自分たちかこの子の命が終わる時」と父は言う。介護をしている者には本当の心の休日はない。将来に対する不安を拭い去ることは出来ない。

弟は寝返り以外、自分では一切何も出来ない。両親は自分たちにもしものことがあったらと、施設に預けてみたこともある。面会に行くと、口もきけず意思の疎通が出来ない弟は、唇がカサカサに渇き、オムツかぶれになっていた。家族でこそ顔色や顔つきで分かるものだが、やはり業務として行う介護には限界があり、弟にとっては可哀想な状況だった。

70歳を超える両親二人での在宅介護は限界と思い、何度も同居の話を持ち掛けたが、頑固な父は今でも「お前は嫁にやった娘」という考えを譲らない。国の政策により在宅での介護を支援する方向が打ち出されているが、自分たちが死んだらこの子はどうなるのか、障害者の子を持つ親の不安は拭い去ることは出来ない。核家族が当たり前になり、地域での人間関係が薄くなればなる程、出来る限り自分たちで最後まで看取ってやれたらと思うが、心の負担は大きい。

◇

私はかつて歌と踊りでステージ活動をしていた。足の故障と共に引退後、介護福祉士の資格を取り、二つのボランティア活動にも参加していった。社会で何が必要か、自分に出来ることを手探りで始めた。

一つ目はキャップハンディ指導ボランティア。小中学校の子どもたちに障害を疑似体験させ、障害を持った方たちの気持ちを少しでも理解し感じてもらえるよう、指導するボランティア団体だった。体験後、子どもたちは口々に「おもしろかった」と言う。「みんなは、2時間程の体験が終われば不便なことは終わるけど、障害を持った人には、この不便さは一生です」。そう言うと、しんと静まり返る。いつか子どもたちが大きくなって、何のためらいもなく大変そうな人にすっと手を差し伸べる社会を作ってくれることを信じて、ボランティアに参加してきた。

私は日本では人の心にまだまだバリアが残っていると思っている。アメリカ留学した息子から、車いすの男の子が友達とサッカーをしていたという話を聞いた。日本では車いすの子と一緒にサッカーするなんて無理に決まっている、ということになるだろう。その子たちは自分たちで新たなルールを作り、楽しそうに時にはボールをぶつけ合い、戯れながら長い時間遊んでいたと言う。これこそが本当のバリアフリーだと思う。

障害者とか健常者とかのボーダーラインをなくし、共に生きる、共に支える。日本でも「バリアフリーな社会を」と言われているが、悲しいかな、人の心にあるバリアを意識改革しない限り、どれだけ段差をなくし、点字ブロックを敷き詰めても、障害を持つ人にとって住みにくい社会であることに変わりはないのだ。

私が参加したもう一つのボランティアはライオンズクラブだった。2002年、主人の所属する堺陵東ライオンズクラブの30周年記念式典にライオン・レディーとして出席した際、縁あって若い女性だけのクラブ、堺エンゼル・ラ

1日のスケジュールは決まっていて、寝たきりにならないよう1日3回は車いすに座らせる。平日は半日ヘルパーが来て、週1回はボランティアによる入浴サービスを受ける。天気の良い日には車いすで散歩することも。外出するには、英幸さんを抱え上げて階段を6段上がらなければならない。以前はご両親二人で出来たが、今は誰かの手伝いが必要になった。マンション生活では近所付き合いは希薄で、気軽に手伝いを頼むことも出来ないという

イオンズクラブにチャーター・メンバーとして入会することとなった。ライオンズクラブは思っていた以上に楽しく、メンバーはみんなそれぞれにパワフルで、すばらしい人たちばかり。一緒にいるだけで考え方など得るものが多く刺激的だった。また多くの先輩ライオンからいろいろなことを学んだ。あっという間に5年の歳月がたった。

昨年になって、私の日々は慌しくなっていった。子どもの高校卒業を機に、もう一度大好きなダンスに関連する仕事をしようと準備を始めた。そのきっかけも、先輩ライオンの言葉に胸を打たれたからだ。また母との約束を果たすだけのつもりだった本の出版後、お手紙をくださる読者の方たちへ返事を送り、新聞社の取材や講演依頼なども相次いだ。

そんな中、今年2月、抵抗力や免疫力が落ちているのか、弟が入退院を繰り返し、昼間は両親、夜は私が弟のそばに付き添うことになった。

自分がやりかけた仕事と、本のこと、弟の入退院と、精神的にも肉体的にもかなり疲労していた時、母の言動がおかしくなった。これはただの物忘れではないと思った。堺エンゼル・ライオンズクラブの5周年記念を終えたばかりの時だった。5年間、私は例会を欠席したことがない。会員数が少ない中、出席出来ずにただ籍だけ置くということが私はどうしても出来なかった。たとえ休会という形を取ったにしても、いつ戻れるか見通しがつかない。ライオンズも、その他かかわってきたボランティアもすべて辞めさせてもらった。しばらくは仕事と大事な家族だけを支えていく決心をして、クラブに退会届を出した。私の不器用な選択をクラブは受け入れてくれた。

◇

その後すぐ、母の様子に気付きながら現実を認めない父を何とか説得して受診した医師に「脳の前部分の萎縮がはっきりと見えます」と宣告された。いずれこんなこともあるかもしれないと覚悟はしているつもりだったが、しばらくは涙が止まらなかった。父と一緒に弟の介護をしながら、母が少しずつ母でなくなっていくことを見守っていかないといけない。もうここからは現実なのだ。

母は四半世紀の間、つらい胸のうちを書きつづり、自分で自分を励ましてきた。今の私が父や母に対して出来ることは、ただそばにいることしかないけれど、父母の気持ちが少しでも楽になればと思っている。

今でもクラブのメンバーや、他クラブの方からもメールをもらっている。

「元気か？　しんどくなったら電話しておいで！　愚痴聞くで！」

「体、無理したらあかんで！　次の飲み会誘うから……」

みんな忙しいのに、いつも温かい。今でも私の弱音を受け入れてくれる、かけがえのない友人だと思っている。主人も本当に優しい人で、陰に日向に何かと実家のこともよく助けてくれる。今では大きくなった息子も、弟を抱え上げるのには頼もしい存在になった。

人を支えるのは人だと思う。支えるやり方はたくさんあって、周りのさり気ない一言に救われたり、勇気をもらったりする。

ささいな言葉も愛や優しさにあふれていれば、仲間、家族、友人に出来る立派なアクティビティではないかと思う。自分の周りが幸せになり、また、その人たちの周りも幸せになって、結果的に社会全体が幸せの連鎖としてつながれば良いと心から思う。

私は今も、気持ちの中ではLのバッジを付けている。仲間に支えられている私の口から出る言葉が、また他の誰かを支える言葉でありますように……と願いながら。

■筆者プロフィール

徳丸靖子（とくまる・やすこ）

1961年、大阪府堺市生まれ。「スクールメイツ」を経て、ボーカル&ダンスグループ「ハーマンズクイーン」の一員としてデビュー。アメリカや中国など海外公演にも活躍した。2003年1月に平均年齢38歳の女性会員で結成された堺エンゼル・ライオンズクラブのチャーター・メンバーとなり、04年度複合地区女性会員増強委員を務めるなど、今年2月に退会するまで精力的に活動。

2007年10月、家族の24年間の足跡をつづった『生きていてくれてありがとう』（問い合わせ先：TEL072-320-3605／徳丸）を出版。

2008-09年度 ライオンズクラブ国際協会 国際理事会構成

執行委員会
アルバート・F・ブランデル
マヘンドラ・アマラスリヤ
エーバハルト・J・ヴィルフス
シドニー・L・スクラッグスⅢ
Dr. ハロルド・R・オットー
タパニ・アンテロ・ラーコ
ケン・バード
アート・A・マーソン
ハワード・リー
ダーナ・ビッグス○
エルヘニオ・ローマン・バイズ
ボーハン・ソーバー
Dr. ジャック・W・ウィーバー

会則及び付則委員会
ジョルジュ・プラシィ◎
ウィリアム・B・ワトキンス, Sr.○
エルマーノ・ボッキーニ
ダグラス・ロージャー
ローザンニ・ジャンキ・バイラッティ
ジョセフ・F・ギャフィギャン

大会委員会
ジョセフ・L・ロブレスキー◎
栢森新治○
ガンスー・ジャン
ニール・R・スペンサー

地区及びクラブ・サービス委員会
ウェイン・E・デイビス◎
Dr. ネルソン・ヴィダル○
シャム・マルパニ
エリス・オマル・スリヤティ
ジョン・ワーゴ＊

財務及び本部運営委員会
ラリー・G・ジョンソン◎
ヴィノッド・カナ○

指導力委員会
Dr. パトリシア・ヒル◎
Dr. ハロルド・R・オットー○
杉本忠夫
Prof. Dr. ハイリ・ウルゲン
アンジェロ・パーシグリオッティ

長期計画委員会
アルバート・F・ブランデル◎
マヘンドラ・アマラスリヤ
エーバハルト・J・ヴィルフス
シドニー・L・スクラッグスⅢ
Dr. パトリシア・ヒル
ジョセフ・L・ロブレスキー
ハワード・リー

会員増強委員会
後藤隆一◎
モーリス・M・カハワイ○
ビシュヌ・バジョリア
Drs. トン・ソーターズ
ベバリー・L・ステビンス
ジェームス・T・コフィ＊

PR委員会
エドワード・J・リーセ◎

奉仕事業委員会
ヴィンス・ヴィネラ◎
マリク・クダ・バクシュ○
Dr.ジェレマイア・マイアー
デブラ・ワッサーマン
Dr. テーサップ・リー

会計監査委員会
ダーナ・ビッグス◎
エーバハルト・J・ヴィルフス
タパニ・アンテロ・ラーコ
ウィリアム・B・ワトキンス, Sr.
スティーブン・D・シェラー

LCIF執行委員会
マヘンドラ・アマラスリヤ◎
アルバート・F・ブランデル＊
エーバハルト・J・ヴィルフス
シドニー・L・スクラッグスⅢ
ヴィノッド・カナ
栢森新治
ボーハン・ソーバー
ニール・R・スペンサー
ジェームス・T・コフィ
ジョン・ワーゴ

◎＝委員長、○＝副委員長、＊＝投票権のない構成員

●**国際会長**：アルバート・F・ブランデル（アメリカ） ●**前国際会長**：マヘンドラ・アマラスリヤ（スリランカ） ●**国際第1副会長**：エーバハルト・J・ヴィルフス（ドイツ） ●**国際第2副会長**：シドニー・L・スクラッグスⅢ（アメリカ） ●**2年目理事**：写真上段右から、ダーナ・ビッグス、ウェイン・E・デイビス、ラリー・G・ジョンソン、モーリス・M・カハワイ、エドワード・J・リーセ、Dr. ハロルド・R・オットー、ヴィンス・ヴィネラ、ウィリアム・B・ワトキンス, Sr.(以上アメリカ)、Dr. パトリシア・ヒル(カナダ)、Dr. ネルソン・ヴィダル(ペルー)、エルマーノ・ボッキーニ(イタリア)、ジョルジュ・プラシィ（フランス）、タパニ・アンテロ・ラーコ（フィンランド）、後藤隆一、栢森新治（以上日本）、マリク・クダ・バクシュ（パキスタン）、ヴィノッド・カナ（インド） ●**1年目理事**：写真上段右から、ダグラス・ロージャー、アート・A・マーソン、Dr.ジェレマイア・マイアー、ニール・R・スペンサー、ベバリー・L・ステビンス、デブラ・ワッサーマン（以上アメリカ）、エルヘニオ・ローマン・バイズ（プエルトリコ）、ローザンニ・ジャンキ・バイラッティ（ブラジル）、ボーハン・ソーバー（クロアチア）、Drs. トン・ソーターズ（オランダ）、Prof. Dr. ハイリ・ウルゲン（トルコ）、杉本忠夫（日本）、ガンスー・ジャン（韓国）、エリス・オマル・スリヤティ（マレーシア）、ビシュヌ・バジョリア、シャム・マルパニ（以上インド）、ケン・バード（オーストラリア）

国際第2副会長

国際第1副会長

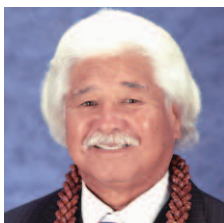
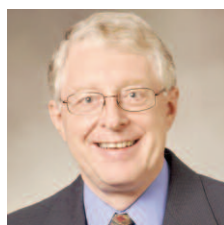
前国際会長

国際会長

2年目理事
（2007〜09年）

1年目理事
（2008〜10年）

栢森新治 国際理事の横顔

奉仕への高い志を胸に
国際協会と日本ライオンズのパイプ役を

　バンコク国際大会の直前に開かれた国際理事会で、健康上の理由で退任された重松良次国際理事の後任に決まったオライオン栢森は、これまで国際理事会アポインティー、視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）ナショナル・コーディネーターの要職を歴任してきた。立志伝中の人物として知られる創業者のスピリットが、国際理事会でも大いに発揮されることが期待される。

履物屋だった父の戦死後、徳島で少年期を過ごす。機械いじりが好きで時計を分解しても、怒らなかった母。

――『中部経済新聞』に連載された「ハングリー・ハート　栢森家の系譜」を拝読しました。大阪でお生まれになり4歳まで過ごされていますが、当時のことは何か覚えていらっしゃいますか？

　サイレンが鳴ったらどこかに逃げ込む防空訓練のこと。それから、暗いところで母親に手を握られ、長い列を作って待たされていたのを覚えています。履物屋をやっていた父親が戦死して、母と祖母、兄と私の4人で、母の実家がある徳島へ疎開する船を待っていた時の記憶です。

――徳島での少年時代について教えてください。

　母子家庭で家にいてもかまってくれる人はいないし、いつも外で遊んでいました。祖母がきつい人で「泣かされるようなけんかをするヤツは、私が泣かしてやる！」と、棒を持って殴るんですよ。だから、けんかっぱやいわけではないけれど、始めたら絶対に負けないけんかをした。昔のけんかは先に泣いたら負けで、相手が泣くまで我慢した方が勝ちでした。強いからじゃなくて、泣かないからガキ大将になった。

　小さい頃から機械いじりが好きで、よく家にある時計を空けてみたり、ラジオの真空管を取り出したりしていました。分解して、壊してしまっても母親は一言も怒らなかったんです。それで、僕の機械好きは助長されたのだと思います。忙しいせいもあったでしょうが、叱るのは祖母の役目で母に叱られることはあまりなかった。よく、父親がいなくて寂しかったでしょうと言われるんですが、寂しさはなかったです。生まれた時からいないので父親の味を知りませんから。家庭というのはこんなもんだと思っていました。

　徳島では10歳まで過ごして、その後一家で大阪へ戻って、母は露天で下駄屋を始めました。

――ずいぶんとご苦労なさったようですね。

　母親が苦労しているのを目にしていると、新聞配達をしても何をしても、自分では苦労だと思わないんですね。ただ、夏休みと冬休みはいやだなという思いはありました。下駄屋は盆と正

構成／編集部

月の前が忙しくて、朝から晩まで手伝いをしなくちゃいけなかった。でも、人と比べて何で自分だけが、というみじめな気持ちはありませんでした。

高校進学は諦めていましたが、戦後の経済復興が我が家にも及んできて、だんだんと生活が上向きになった。中学3年になった頃に母が定時制ならいいと言ってくれて、働きながら定時制に通っていた兄は、自分もがんばるから お前は昼間通えと言ってくれました。進学したのは工業高校の電気科です。卒業して就職するのに普通高校より有利だし、機械よりも電気の方が将来性があると考えたんです。

高校最後の文化祭で演じた「親子雷」。監督、演出など一手に務めた（後列右から二人目）

高校2年で「人生計画書」に謳った、独立起業と社会貢献。下請けではなく、自社ブランド作りを目指し名古屋へ。

——高校2年生の時に書かれた「人生計画書」で、既に独立起業を目指していらっしゃいますね。

単純なことで、家が商店ですからサラリーマンじゃなくて社長になりたかった。計画には3年ごとの目標があって、まず会社に入ってがむしゃらに働く、第2目標で会社がどんな人間を評価するか見極める、第3に会社が必要とする人間になり、重役になる見通しが立たなければ独立への準備、第4が独立して社会に認められる立派な会社にする。最終目標は、40歳になったら社会貢献を開始する。それまで社会にお世話になってきましたから、いずれ社長になって、人の役に立つことをしたいという気持ちがありました。母は父親の遺族年金をもらっていたので、国がきちんとしていれば困った時に面倒を見てくれる、だから国に役立つことをして、人の役に立つ人間にならなきゃいけないというのが口癖でしたから、そういう風に育てられたんですね。

高校を卒業して就職したのは事務機器の輸入商社です。第一に給料が良かったし、事務機には将来性があると思った。入社して「無理、無駄、ムラを省く」という事務の合理化の基本を教えられました。技術職で修理を担当するうち営業に呼ばれ、国産電卓第1号の販売にかかわった。営業職は面白かったけれど、会社には学歴の壁があって、入社から5年8カ月で退社しました。事務機に参入したキャノンとの販売店契約で会社を起こしたんですが、客先に売り込みに行くと、シャープがいちばんと言ってたのに「この前は」と。このままでは相手の信頼を裏切り人間関係が崩れてしまうと思い、解散しました。その後、ダイコク産業を起ち上げたのは24歳の時です。

——「ダイコク」の社名の由来は何ですか。

親父が丁稚奉公から始めてもらったのが「大黒屋履物店」ののれんで、今度は自分が継ごうと思いました。それまで販売の仕事でお世話になっていた大手メーカーから仕事をもらい、公衆電話の修理や電磁カウンター、制御盤の製造をやっていました。そうするうちに、名古屋でパチンコ・メーカーの計数管理の仕事をしないかと声を掛けてもらった。高校時代の恩師には、大阪で安定した仕事を続けた方がよいと反対されましたが、名古屋に移ることを決めました。下請けではなくメーカーになって、ダイコク・ブランドを作りたかったんです。賭けのようなものですね。名古屋に会社を移した後、ダイコク電機を設立して、自社ブランドのパチンコホール用コンピューターを開発しました。

サラリーマン時代、西ドイツ製電動計算機の修理に没頭

よく運は自分でつかむものだと言われますが、それは大きな間違いで、出会った人から与えられるものです。ど

クラブに良い人間関係があるからこそ、奉仕もうまくいく。ライオンズで、恵まれない人に手を差し伸べる社会貢献を。

んな人と付き合うかが自分の運命を左右していく。何事も人との出会いから始まるんですね。

ライオンズクラブでも、これまで良い出会いに恵まれてきました。

――ライオンズクラブ入会は40歳の時。これは人生計画書の通りですね。

たまたまその時期に、名古屋ウエスト・ライオンズクラに声を掛けて頂いたんです。入会当初は、考えていたより社交クラブ的な傾向が強いと感じましたが、今はそれで良かったのだと思っています。クラブの中に良い人間関係があるからこそ、奉仕活動もうまくいくんですね。

自分が貧しい境遇で育ちましたから、恵まれない人たちに手を差し伸べたいというのが、私個人としてのライオンズでの社会貢献。そして企業の社会貢献として設立したのが、㈶栢森情報科学振興財団です。私はコンピューターで会社を大きくしてきましたから、情報工学を学ぶ若い人たちの研究を助成し、国と社会に貢献したいと考えました。1996年に設立して、情報科学の分野では文部省(当時)所管の初の財団となりました。

2005年6月の香港国際大会会期中に突然の要請を受け、国際理事会アポインティーに就任。写真は06年7月、アメリカ・ボストンで開催された国際理事会・奉仕事業委員会の会議

――ライオンズの奉仕で印象に残っているのはどのような活動ですか?

私がクラブ会長の時、フィリピンのモンテンルパに受刑者の社会復帰センターを建設しました。国連下部組織のアジア極東犯罪防止研修所の所長をされた敷田稔さんに、フィリピンでは犯罪を犯した人の社会復帰を助ける職業訓練などのシステムがなく再犯率が高いという話を聞き計画しました。施設の設計は、ダイコク電機が大阪花博にパビリオンを出展した時に建設設計をお願いした縁で安藤忠雄氏に打診したところ、ボランティアで協力してくださり、現地にも何度か足を運んで頂きました。この事業は、計画を知った中部日本放送が密着取材をしてドキュメンタリー番組として放送されたんです。

地区ガバナーの時には「奉仕、そして研鑽と親睦」をテーマに掲げ、奉仕では特にLCIFに力を入れました。ケイ・K・フクシマLCIF理事長(当時)を講師にセミナーを開いて理

解を深め、献金額で大きな成果を得ました。研鑽では、年4回の市民公開講座を開催しました。ドトール・コーヒーの鳥羽博道社長（当時）ら企業の創業者や、堺屋太一氏、安藤忠雄氏など錚々たる顔ぶれの皆さんに講師をお引き受け頂き、たいへん好評でした。

――国際理事会には2005年度にアポインティーとして加わっておられますが、その時はどのような印象を持たれましたか？

私は奉仕事業委員会とLCIF執行委員会に所属しましたが、皆さん本当に熱心に取り組んでいました。理事会開催の2、3週間前には大量の英文資料が送られてきます。こちらは書かれた内容を理解するだけで精いっぱいですが、みんな問題点を洗い出してよく調べてから出席している。言葉のハンディを感じましたが、徐々に要領がつかめたと思います。

特に関心したのは、理事会最終日の前に丸1日かけて開かれる審議会です。各委員会の審議結果を委員長が発表し、理事全員があらゆる角度から意見を出し合い議論して、必要な場合は修正が加えられます。その過程を経るため、理事会は儀礼的に進行出来るようになっているんです。クラブの場合には、委員会から理事会に上程されて、あまりつっこんだ議論のないまま通ってしまうことが多いですね。国際理事会ではこの審議会が非常に重要な位置づけにあると思います。

――日本におけるライオンズの現状をどのようにご覧になっていますか。

会員増強について、日本では少し混乱を生じているように思います。国際協会の方針に対して、日本でどのように動くか、それが明確に見えていない。今一度、会員の本質というものは何かを考えてみることが必要ではないでしょうか。

――最後に、国際理事としての抱負をお聞かせください。

国際協会と日本ライオンズのパイプ役を果たしたいと思います。協会が目指し進んでいく方向と、日本で行われていることの間に、もしもギャップがあるとしたら、それを埋める役割が出来ればと考えています。

■栢森新治

1940年（昭和15年）大阪市生まれ。ダイコク電機㈱相談役（創業者）。1980年愛知県・名古屋ウエスト・ライオンズｸﾗﾌﾞ入会、96-97年度クラブ会長、2003-04年度334-A地区ガバナー、05-06年度国際理事会アポインティー、05～08年CSFⅡナショナル・コーディネーター。07年度第4回国際理事会（バンコク）で国際理事に就任。

日本ライオンズよ、目標を高く掲げ世界に貢献を

■国際理事
杉本忠夫
（北海道・札幌ライラック）

6月23日からタイ・バンコクで開かれた第91回国際大会において国際理事に就任し、責任の重さを痛感した。これからの2年間、先輩理事と共に、協会の基本理念を尊重し、日本、OSEALを始めライオンズクラブの活性化に努めたい。

さて、日本ライオンズの今日的問題の一つに会員増強があり、これは永遠の課題と言っても過言ではない。世界的にも同様で、国際会長もその対策について年度ごとに具体的指針を示され、世界のガバナー始め多くの役員も努力を続けているが、満足な結果が得られていないのが現状である。残念ながら特に日本、アメリカで、減少傾向が顕著なのである。

今期、ブランデル国際会長は、3年間にわたって大幅な会員増強に取り組むための「グローバル会員増強チーム（GMT）」を組織され、増強運動の展開をテーマの一つとされた。必ずやその成果が現れて来るものと期待している。日本では後藤忍元331-C地区ガバナーが東日本（330～333複合地区）、高田順一元334複合地区議長が西日本（334～337複合地区）を国際チームのメンバーとして統括する。そしてGMTが所属する会員増強委員会のトップを務めるのは後藤隆一国際理事だ。

過去を見る時、1年ごとの短い周期で会員増強のプランを浸透させることは容易ではなかった。これを考慮して3年のスパンで、各クラブまで十分理解を深めることが出来るように取り組んだものである。更に、せっかく増員した会員を維持するためには、入会後のフォロー、またクラブ・メンバー全員がモチベーションを上げていくことが必要だと考える。

次に、日本ライオンズの将来を視野に入れ、国際分野へ進出出来るメンバーの養成を8複合地区で行うべきである。現在のようなローテーション優先による地区ガバナー及び国際理事の選出には、大いに疑問を感じる。日本から国際分野の頂点で活躍出来る人材を輩出するためには、現在の弊害を取り除く必要がある。日本がいつまでも国際会長不在の十字架を背負うのも限界。各複合地区は、国際的視野を持ち、資質の備わったメンバーの発掘と育成に取り組んでいくべきである。事あるごとに、候補となるべき人材に難色を示す等ははばかられることだ。今後、日本ライオンズは現状に満足することなく、更に世界の風を読む力量を養うべきだと思う。それぞれ理念は異なっても大同小異の言葉を尊重し、日本ライオンズの悲願、福井正憲国際第2副会長候補に続く、次期候補の擁立準備も必要と考える。

視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）の献金状況を見ても、日本は国際協会に大きく貢献していると思う。会員数においても、いつまでも世界第3位に甘んじてはいない。現在12万人の日本のメンバーは目標を高く掲げ、これからもウィ・サーブにまい進しようではないか。

今期、後藤隆一理事は国際理事会の会員増強委員会に所属し委員長を、栢森新治理事はLCIF執行委員会で会計、また国際大会委員会で副委員長を務められる。私は指導力育成委員会の所属となった。それぞれの委員会で尽力することになる。

ライオンズ ニュースカセット

NEWS CASSETTE

写真提供／香港政府観光局

香港フォーラムは最新施設アジアワールド・エキスポで

第47回東洋・東南アジア（OSEAL）フォーラムは2008年12月4日（木）～7日（日）、香港で開催される。会場のアジアワールド・エキスポは05年にオープンし、最新技術を駆使した展示場で、開会式会場となるアジアワールド・アリーナは1万3500席を備える。香港国際空港からは車で5分の至近距離で、エアポートエクスプレスを利用すると空港駅から1駅、市内の香港駅から所用28分と便利なロケーションにある。フォーラム主要行事のほとんどがこの施設で行われる。本部ホテルは空港直結のリーガルエアポート・ホテル。フォーラム登録料は100ドルで、これには開会式後の香港ディズニーランド入場料が含まれている。事前登録締切は9月30日。主な日程は左記の通り。

12月5日（金）14時半～16時半：開会式
12月6日（土）14時半～16時：各種セミナー
　　時間未定：ジャパン・レセプション
12月7日（日）10時～12時：閉会式

国際第2副会長候補者、国際理事候補者の推薦決まる

8月1日、東京・丸の内の日本ライオンズ連絡事務所で開催された第1回国際理事候補者選挙管理委員会（木下務委員長／333複合）は、2009～11年国際理事候補者として不老安正元協議会議長（福岡県・太宰府ライオンズクラブ）を推薦することを決定した。

また同日開かれた第1回国際第2副会長候補

者選挙管理委員会（菅原雅雄委員長／330複合）では、2009・10年度国際第2副会長候補者として福井正憲元国際理事（京都府・山城ライオンズクラブ）を推薦することを決定。国際第2副会長立候補者推薦手続規則は推薦人による投票を行うことを定めているが、330～337の各複合地区年次大会においてライオン福井への推薦が決議されていることから、委員全員の了承を得て推薦投票は省略することとした。

国際協会の新ロゴマーク発表

バンコク国際理事会で採択された、ライオンズクラブ国際協会の新ロゴマークが発表された。新しいロゴは、見やすく簡素化され、印刷や電子データ、用品への利用にも適している。広く親しまれ、愛されている紋章はそのまま保持されている。次号10月号に新ロゴマークを含めた協会のブランド・リニューアルに関する記事を掲載予定。

2007年度世界の会員数純増にインドが大貢献

国際協会集計（速報値）によると、2008年6月末世界の会員数は130万5638人で、4年ぶりに年間の増減がプラスとなった。これに大きく貢献したのが会員数世界第2位のインド。年間に1万8510人（13・3％）の純増で、6月末15万7456人となった。主要国では他に韓国が会員数を伸ばし、2067人（2・5％）増の8万3629人。一方、日本は2341人（2・0％）純減の11万2519人、アメリカも5066人（1・3％）減の38万1667人だった。世界のライオンズは1998年の145万人をピークに徐々に会員数を減らしてきた。今回の増加が下げ底からの上昇の兆しであることが期待される。

日本の会員数は前年度末から2700人減

07年度6月末の本誌集計によると、日本のライオンズは3377クラブ、会員数11万1922人で、年間2811人の純減となった。減少幅が2千人台に抑えられたのは10年ぶり。年間会員数純増を遂げた準地区も5地区あり、中でも333・E地区（茨城）の232人（7・6％）増は特筆に値する。

複合地区、地区年次大会で家族会員会費制度の導入相次ぐ

2007年度の各複合地区、地区年次大会の決議録を調べたところ、四つの複合地区、16の地区が、家族会員に対して複合地区費、地区費（地区大会費など含む）に何らかの減免措置をとることを決議したことが分かった。地区費を半額にしたり、地区大会費と地区誌の費用を免除するなど、設定は地区によってさまざま。地区での家族会員会費制度の導入は、全国に先駆けて330・B地区（神奈川・山梨）が06年度年次大会で決議し、07年度から施行していた。

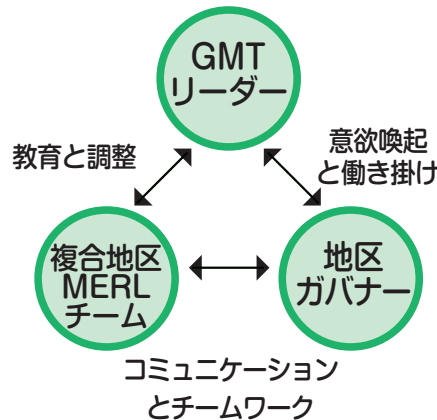
家族会員プログラムは奉仕活動を家族と共有し、次世代に引き継ぐことを目的に、06年度後期からスタートした。6月末現在、日本全体で818人の家族会員（子会員）が在籍する。八複合地区中、最も多くの子会員を有する333複合地区は女性会員の割合も最も高く、昨年度は400人の純増を遂げている。

市民の善意集めるライオン像の設置

334・B地区（岐阜・三重）年次大会の記念事業として、三重県・四日市商工会議所前の歩道に、募金箱の役割を持つライオン像が設置され、4月4日に除幕式が行われた。豊田良郎ガバナー（当時）が、東京新宿ライオンズクラブが設置した新宿駅東口のライオン像をヒントに提案したもの。ライオンの口にお金を入れると「ガオー」の雄叫びに続いて「ありがとうございました」と音声を発する。必要な電力は風力及びソーラー発電で賄う。募金を管理、運用する地元ゾーンは、社会奉仕のシンボルとして四日市の名所の一つになればと期待している。

グローバル会員増強チーム Q&A

GMT：Global Membership Team

会員増強の鍵は継続性とチームワーク

Q. GMTとは何ですか？

従来には見られなかった一貫性と継続性を持ったシステムで会員増強に取り組むため発足したチームです。GMT委員長、副委員長とGMTリーダー41人で国際チームが結成され、GMTリーダーは担当地域の複合地区MERLチーム、地区ガバナー及び地区MERLチームと協力して目標達成を目指します。

新システムの特徴として、以下が挙げられます。

1. 継続性と柔軟性の両立
2. 地域別計画に根差した世界共通目標の設定
3. 実証済みの基盤を織り込んだ新体制の確立
4. 国際協会と複合地区、地区及びクラブ間のコミュニケーション

Q. GMTリーダーの任期は？

2008年7月から2011年6月までの3年間です。

Q. 日本のGMTリーダーは誰ですか？

後藤忍元331-C地区ガバナーと高田順一元334複合地区議長の二人です。後藤リーダーが330、331、332、333複合地区を、高田リーダーが334、335、336、337複合地区を担当します。

Q. GMTリーダーの役割は何ですか？

プログラムを促進するため、MERLチームとの連携を強化し、国際会長方針の浸透に努めます。地区ガバナーの会員増強計画の進捗状況をチェックし、望ましい成果が上がるよう働き掛けます。

○複合地区MERLチームに対して

・教育とコミュニケーション
・複合地区に合ったプログラムの調整を支援
・長期的な会員増強計画の立案に助力

○地区ガバナーに対して

・会員増強への意欲を喚起し、働き掛ける
・年間会員増強計画の達成に助力
・報告データを確認し、目標設定や戦略の修正に助言する

岩手・宮城内陸地震被災地で緊急対策・ALERT委員会

330-A地区（東京）の緊急対策・アラート委員会（伊賀則夫委員長）の会議が、岩手県一関市の矢びつ温泉「瑞泉閣」で開かれた。6月に発生した岩手・宮城内陸地震の被災地と、風評被害によって大きな打撃を受けている観光地を視察するために企画したもので、委員会メンバーら14人が参加。地元332-B地区（岩手）の米谷春夫ガバナー、高橋幸喜元ガバナーの手厚い歓迎を受けた。一関市役所内にある地震対策本部の担当職員によると、風評被害は深刻で、実質的には地震の影響がないにもかかわらず宿泊客が前年比50％を割るホテル・旅館が多く、廃業に追い込まれた温泉旅館もあるとのこと。伊賀委員長は「『心配はないのでぜひ利用してほしい』という地元の悲痛な叫びを、全国のライオンズにもお伝えしたい。観光施設を利用することが被災地支援となる。委員会としては、新しい形のアクティビティとして協力を呼び掛けていきたい」と話している。

ライオンズクラブ国際協会がユーチューブにデビュー

世界最大の動画共有サイト「ユーチューブ（YouTube）」にライオンズクラブ国際協会の公式チャンネルが開設された（www.youtube.com/lionsclubsorg）。ライオンズクラブについて世界中に広くPRする効果が期待される。世界各地のクラブによる奉仕事業を紹介するビデオ・マガジン「LQ（ライオンズ四季報）」や、バンコク国際大会のビデオ映像などを視聴することが出来る。

2007・08年度『ライオン』誌年度賞

ライオン誌日本語版委員会では年間の投稿原稿の中から特に優秀なものを選考し、毎年9月のライオン誌月間に「ベスト・エッセー賞」として発表している。2007・08年度の受賞は以下の通り。

●ベスト・エッセー賞

渡来世志雄（千葉県・柏沼南）07年9月号「ライオンズクラブと献眼者」
大重兼一（鹿児島県・川内）07年11月号「花くず」
有野勇（兵庫県・三木中央）08年4月号「視力障害を乗り越えて」

会議録

第5回日本ライオンズ連絡事務所管理委員会（6月12日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：廣瀬恒彦、桶谷賢知、杉山正夫、髙田一男、竹本實生、永井義夫、田崎登保各委員）

①臨時管理委員会会議要録の確認②事務所移転③08年度暫定収支予算（案）④「ゾーン・リジョン・リーダーセミナー」開催費用支払い⑤報告事項

第12回ライオン誌日本語版委員会（7月3日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：後藤隆一国際理事、谷野徹元国際理事、渡邊豊隆、古谷野環、坂井正、小俣義正、松田毅、山根健、井村一男各委員）

①07年度ライオン誌日本語版委員会年次報告（案）②08年度ライオン誌日本語版事務所予算（案）③7月号（11万7400部発行）出来④8月号記事内容の確認⑤9月号以降台割（案）と主要記事予定⑥ウェブサイト関連⑦オンライン報告システムServannA⑧その他

第1回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（7月8日／パレスビル3階会議室／出席者：大熊泰雄、齊藤實、阿部幸一、福永敬、矢口武克、八嶌隆、小田邦雄、百田勝彦各議長、後藤隆一、栢森新治、杉本忠夫各国際理事）

①出席者紹介②会議進行について③国際理事会報告④各複合地区からの持ち寄り議案⑤福井正憲第2副会長立候補者推薦書簡の送付⑥ライオンズクエスト・プログラム認定講師の養成⑦国際協会関係（DGEセミナー講師、ミネアポリス国際大会ホテルの割当）⑧共通議案の取り上げ⑨その他の議案

新結成／解散／合併クラブ

■解散クラブ

神奈川県・川崎京浜／埼玉県・上尾武蔵／北海道・歌志内／北海道・釧路まりも／岩手県・新里源兵衛平／秋田県・阿仁／秋田東／千葉県・下総中山／大阪府・交野／広島北／福岡県・北九州小倉南（合併）／宮崎県・日南黒潮

■合併クラブ（合併前のクラブ名）

福岡県・北九州（北九州／北九州小倉南）

訃報

■元国際役員

ライオン諸岡俊雄（岩手県・紫波）6月30日死去、80歳。95年度332・B地区ガバナー。
ライオン井上弘（兵庫県・八鹿）7月2日死去、92歳。84年度335・D地区ガバナー。
ライオン林幹也（岡山県・西大寺）7月11日死去、84歳。98年度336・B地区ガバナー。
ライオン小野田茂里（静岡県・掛川）7月11日死去、84歳。99年度334・C地区ガバナー。

■献眼者

▼08年5月：ライオン大橋光雄（静岡県・沼津）／ライオン松尾誠（長崎県・諫早）▼08年6月：ライオン古賀一力（山形霞城）ライオン齋木勇三（千葉）▼08年7月：ライオン小野田茂里（静岡県・掛川）

※誌面の都合により「ライオンズ検定」は休載致します

Executive Officers Message

執行役員メッセージ

前国際会長／
LCIF理事長
マヘンドラ・
アマラスリヤ

この勢いを生かそう

昨年はライオンズクラブ国際財団(LCIF)にとって大きな成功の年でした。視力ファーストⅡキャンペーン(CSFⅡ)の記念碑的な成功は、皆さんの多大なご支援の賜物です。CSFⅡはこれまでLCIFが行ってきた資金調達の中でも最大の成功を収めました。世界中のライオンズがキャンペーンの旗の下、真の意味で力を結集したのです。

が、CSFⅡは終了しても、LCIFへの支援はまだまだ必要です。CSFⅡの成功の勢いを生かし、LCIFへの理解を更に広げ、外部団体からの協力も増やしていく必要があります。

LCIFには視力ファーストの他にもライオンズクエスト、自然災害が発生した地域への緊急支援と長期復興支援、大規模な人道支援プロジェクトへの交付金など数多くのプログラムがあります。これらはすべて、LCIFへの無指定献金によってのみ実現可能です。

LCIFを通じてライオンズの会員は地域と世界に奉仕し、多くの人々の生活を改善することが出来ます。ライオンズが結集して生まれるパワーは、個人が成し得ることをはるかに上回ります。

今年は、LCIFによるCSFⅡ以外の重要なプログラムについても、広く伝えてくださるようご協力をお願いします。こうしたプログラムを通じてライオンズは世界の各地域で必要とされる奉仕を提供出来るのです。LCIFは皆さんの財団です。

国際第１副会長
エーバハルト・J・
ヴィルフス

新しい年度～変化の時

すべての文化が、新年を祝ってきました。人々にとって必要なことは、このような機会を利用して、1年を振り返って反省し、更にはより良い未来に向けての抱負を立てることです。ライオンズ年度は7月1日に始まります。この日は新国際会長、新理事会、新地区ガバナーなどを歓迎する日です。1年のこの時期になると、新しい活動力、新しい意気込み、そして新しい考えであふれんばかりになります。

すべてのライオンやクラブは少なくとも、ある程度の自己評価、改革、再構築に取り組むべきだと思います。ある賢者は「吟味されていない人生は生きる価値がない」と言っています。それはライオンズにも当てはまります。皆さんの地域への奉仕活動は、きっとすばらしいものだと思います。しかし、クラブは広報活動、会員増強・維持の努力はもとより、例会や奉仕活動さえも改善出来る可能性があります。

私たちは現状維持で満足することは出来ません。私たちの敵は自己満足です。革新、創造性によって会員は活発になり、その結果、効率的で効果的な活動を行い、地域の人たちに、私たちの活動が魅力的なものだと分かってもらえることでしょう。

ライオンズの皆さん、新年おめでとうございます。皆さんのクラブが新しい考えや活動を受け入れることで、最高のクラブとなることを願っています。

国際第2副会長
シドニー・L・
スクラッグスⅢ

結束は、私たちの強み

私たちは宇宙に浮かぶ地球の写真を見て、地球の美しさに感謝し、また地球の脆弱性にも気付かされました。また私は機長として、多くの事柄について新しい視点を得る機会がありました。上空から観察すると、私たちが住むそれぞれの地域、国、そして世界は概して調和が取れていて、また相互に結び付いていることに気が付くのです。

国際協会の最大の長所の一つとして、目的の一貫性が挙げられます。私たちは異なる文化を持ち、異なる言語を話します。しかし、私たちは奉仕という名において結び付いています。私たちはそれぞれの違いをひとまず置いて、共に奉仕活動を行っています。これはクラブ内のことだけではなく、国境を越えた活動でも同じことが言えます。中には意見が合わない人もいるかもしれませんが、地域を改善する献身さに関して言えば、結束しているのです。

今年は私たちの結束を大いに利用して、クラブの調和を高め、他者への奉仕を強化しましょう。会員同士の結び付きを楽しみ、奉仕の志ある人に会員になる機会を差し伸べながら、活動の場を増やしていきましょう。

私にとってLIONSは愛情に満ちた(Loving)、個人(Individuals)が提供する(Offering)、必要な(Needed)奉仕活動(Services)の略だと思っています。私はライオンであることを誇りに思います。皆さんも同じでありますように。

■LCIF

1. 投資に関する提案手順をまとめるよう、職員に対して要請。暫定的な投資コンサルタントを任命。
2. 2008年9月30日までに全納された新規のCSFII献金についてはMJF表彰を認めることにした。
3. これまでに記録済みのCSFII献金に対して、MJFの表彰を受ける個人を指名出来る期間を3年間延長。
4. ロスLCIF理事長を、2009-10年度までパンアメリカン眼科財団理事会に対するLCIF代表として任命。
5. エーバハルト·ヴィルフス第2副会長を、ムーアフィールズ·ライオンズ·コールブ·トラストに対するLCIF代表として任命。
6. 総額2,438,975ドルに及ぶ44件の一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金を承認。
7. 2008-09年度ライオンズクエスト諮問委員会の欠員を、次年度の執行役員と協議の上補充するよう次期国際会長に要請。
8. 2008-09年度ライオンズクエスト米国運営委員会の欠員を、次年度の執行役員と協議の上補充するよう次期国際会長に要請。
9. 中国におけるLCIF／スウェーデン·ライオンズ合同テント配布活動向けに20万ドルの理事会指定四大交付金を承認。
10. 中国四川大地震災害復興向けに50万ドルの大災害援助交付金を承認。
11. アメリカ·アイオワ州洪水災害救済活動向けに5万ドルの大災害援助交付金を承認。
12. 一般援助交付金プログラムに対する試験的変更を今後更に3年間延長。

■リーダーシップ委員会

1. 20以上の準地区で構成される複合地区に対しては、各会則地域で行われるMERL委員長セミナーへの出席資格のある公認のMERL委員長に加えて更に4人（会員増強、エクステンション、会員維持、指導力育成の各分野につき1人ずつ）の参加を承認。
2. 副地区ガバナー研修のために複合地区資金援助プログラムを通じて申請可能な参加者一人当たりの配分額を、75ドルから100ドルに増額。

■会員増強委員会

1. グローバル会員増強チームに適用される監査規定を承認。
2. 家族及び女性会員増強委員長を地区ガバナー家族会員増強アワードの受賞対象者として含めることを承認し、同アワードの名称を地区家族会員増強アワードと改名。
3. 五つ星優良クラブ·イニシアチブの採用を承認。

■PR委員会

1. 2色使いによる一新されたロゴをライオンズクラブ国際協会の公式ロゴとして採択。
2. R・R・ドネリー・アンド・サンズ社との印刷契約の更新を承認。
3. PR及びプロダクション部の名称をPR及びコミュニケーション部に変更。
4. 単一、準及び複合地区の会則及び付則、または現地慣習に応じて、国際理事及び元国際会長のプロトコール上の順位を変更することを承認。
5. 単一、準及び複合地区の会則及び付則、または現地慣習に応じて、元理事会アポインティーをプロトコールに含めることを承認。
6. 国際会長賞を2007-08年度分として342個、国際リーダーシップ・アワードを2007-08年度分として315個それぞれ増やすことを承認。

■奉仕事業委員会

1. 2007-08年度のベスト·レオを決定。
2. ユースキャンプ参加申込書に関連して、理事会方針書への事務的改訂を承認。
3. 「ライオンズ緑化チーム」を、2008-09年度より有効となるライオンズクラブ国際協会公認奉仕プログラムとして承認。
4. 「ライオンズ・クルー・アット・ワーク」を、2008-09年度より有効となるライオンズクラブ国際協会公認奉仕プログラムとして承認。
5. レオクラブ·プログラム諮問パネルのメンバーに関連して、構成、資格、推薦、選出手順を理事会方針書に加えた。
6. 職責を全うした複合地区糖尿病教育委員長に授与されるアワードを承認。

上記国際理事会決議事項のいずれかに関する詳細は、協会ウェブサイト（www.lionsclubs.org）でご覧頂くか、国際本部（電話：630-571-5466）にお問い合わせください。

国際理事会会議の決議事項要約

タイ・バンコク
2008年6月18～22日

1. ライオン栢森新治を、重松良次国際理事の辞任により生じた残存任期について、国際理事職の空席を埋めるために任命。

■会則及び付則委員会

1. 204地区（グアム）における副地区ガバナー選挙に関する抗議を却下し、ライオンメレン・P・ルイズを204地区の2008-09年度副地区ガバナーとして認定。
2. 308-B2地区（マレーシア）における副地区ガバナー選挙に関する抗議を認め、308-B2地区の2008-09年度副地区ガバナー選挙を無効とし、2008-09年度副地区ガバナー職は空席であることを認定。
3. ライオンA・K・M・ショフュゥラによってなされた315-B4地区（バングラデシュ）における副地区ガバナー選挙に関する抗議を却下し、ライオンシャー・M・ハサンを315-B4地区の2008-09年度副地区ガバナーとして認定し、同時にライオンショフュゥラ及びチッタゴン・プログレッシブ・スター・ライオンズクラブの会員に対し、地区大会及び当該選挙に関する訴訟を直ちに取り下げ、同時にライオンズに関する件について今後一切訴訟を起こすことのないよう指示し、これに従わない場合には、同クラブは解散かつ（または）同クラブにおいて違反した会員はライオンズクラブにあるまじき行為を行ったとして除名されるとした。
4. 324-D1地区（インド）における副地区ガバナー選挙に関する抗議を認め、324-D1地区の2008-09年度副地区ガバナー選挙を無効とし、2008-09年度副地区ガバナー職は空席であることを認定。
5. 330-A地区（日本）における副地区ガバナー選挙に関する抗議を却下し、ライオン岡野忠生を330-A地区の2008-09年度副地区ガバナーとして認定。
6. 324-D1地区（インド）のバンガロア・ウエスト・ライオンズクラブから申し立てられた会則にかかわる抗議について、その検討に直ちに取り掛かるだけの事由があることを認め、その実体を考慮した上で本件に関する最終判断を下すこととした。
7. 324-D1地区（インド）のバンガロア・ウエスト・ライオンズクラブから申し立てられた会則にかかわる抗議を認め、2008年4月13日またはその前後に324-D1地区において実施された国際理事推薦のための選挙結果を棄却し、324-D1地区に対して、代議員の資格証明がグッドスタンディングにあるライオンズクラブの会員を対象に行われることに十分に配慮した上で、改めて推薦のための選挙を実施するよう勧告。
8. 地区ガバナー、協議会議長及び任命された調停者向けの「紛争解決の指針」を、国際理事会によって先に承認された紛争解決の方針及び手順への補遺として採択。
9. 国際会則及び付則条項の並べ替えに関する改正案が2008年国際大会において代議員により可決された場合、国際理事会方針書における会則及び付則の引用部分をすべて改訂することを承認。

■地区及びクラブ・サービス委員会

1. 159のライオンズクラブ（会員数1,070人）の解散を承認。
2. ボスニア･ヘルツェゴビナ、ラトビア、ウクライナにおける3人の暫定ゾーン･チェアパーソンを任命。
3. 第1副地区ガバナー及び第2副地区ガバナーの役職を設置するという国際会則及び付則改正案が2008年バンコク国際大会で採択されることを条件とした上で、2009年7月1日を発効日として標準版地区会則及び付則と標準版複合地区会則及び付則を改正し、二つの副地区ガバナー職にかかわる条項を加筆。
4. 理事会方針書の地区分割に関する規定を改め、地区がグッドスタンディングのクラブ数35及び会員数1,250人という最低条件を満たしているか否かの判断には、入手可能な最新の公式会員累計表を用いることにした。
5. 理事会方針書に記載されている地区及びクラブ･サービス委員会の責任内容を変更。

■財務及び本部運営委員会

1. 2008-09年度修正予算（黒字予想）を承認。
2. 第4四半期収支予想（黒字予想）を承認。
3. 新規署名権限の承認に伴い、理事会方針書第11章“財務”E項（11-4）の改訂を承認。
4. 現行の投資方針を反映させるため、理事会方針書第11章“財務”D.2 項（11-4）の投資に関する部分の改訂を承認。
5. エリア・フォーラムを以下の推奨期間内に開催するよう要請するため、理事会方針書第22章“スピーカー任務及び旅行規定”B.2項（22-3）の改訂を承認。
   - ○アメリカ／カナダ - 9月の第2週または第3週のいずれか1週間
   - ○ ヨーロッパ - 10月最後の週から11月の第1週にかけて
   - ○ OSEAL - 11月の第2週または第3週のいずれか1週間
   - ○ ISAAME - 12月の第2週または第3週のいずれか1週間
   - ○ 中南米 - 1月の第2週または第3週のいずれか1週間

SCENE

緑のカーテンで子どもたちにエコの心を。

神奈川県・横須賀ライオンズクラブ

■文／久保晋作　写真／明人

地球温暖化防止やCO_2削減が叫ばれる昨今、壁面緑化の一つ「緑のカーテン」が注目されている。建物の窓を覆うようにツル性植物を生育させた自然のカーテン。植物が窓から差し込む日差しを遮り、葉の蒸散作用で温度を下げる効果がある。手軽に出来る環境保全活動として、家庭や学校で取り入れられている。

そんな緑のカーテンを市内の小学校に設置する事業を展開しているのが、神奈川県・横須賀ライオンズクラブ（野澤修会長／31人）。校舎の日よけ効果と同時に、植物の育成を通して子どもたちに自然の大切さや環境問題に対する意識を養ってもらおうと、昨年から始めたアクティビティだ。

今年は7校にアサガオの種とプランター、ネットを寄贈。うち2校ではその設置までを行った。5月に種を植えたアサガオがぐんぐんと伸びてきたと聞いて、夏休み直前の諏訪小学校を訪問した。

順調に成長したアサガオのツルは、既にネットが張られた2階にまで到達。花もつけ始めた。今年、世話をしているのは4年生。この日は9人の子どもたちが交替で水やりをしていた。じょうろに水をくみ、一列に30メートル程並んだプランターを何往復もする。夏休みの期間中は、当番制で水やりに来ることになっている。

作業に汗を流す子どもたちを見守りながら野澤会長は言う。

「昨年は見事に失敗しました（笑）」

まず、子どもたちが夏休みに入ることも想定外で、水やりの人手が足りず、ほとんどを枯らしてしまったという。また種まきの時期はちょうどライオンズ年度の替わり目に当たるが、新年度に入って準備を始め、タイミングが遅れたのも失敗の一因となった。

2回目の今年は首尾よく進んでいる。鑑賞用として楽しめる工夫もした。早咲きと遅咲きの開花時期の違う種類を植栽。遅咲きのセイヨウアサガオは、夏休みが明けてなお、10月まで花開いて目を楽しませてくれる。

「今年はアサガオだけですが、ユウガオを混ぜると1日中、花を楽しむことも出来ますね」

と話すのは造園業を営むライオン久我寛。本職の的確な指導もクラブにとっては心強い。

今後も継続事業として、緑のカーテンの設置は続けられる。目標は50余りある市内すべての小学校にこの活動を広めることだ。

サイクロン被災にも負けず ミャンマーでの植林と教育支援

大阪中部ライオンズクラブ

大阪中部ライオンズクラブは45周年記念事業としてミャンマーでの植林と小学校改修事業を計画し、今年2月には会員と家族9人が現地を訪れた。しかしその後、サイクロンの襲来で村が潰滅したとの報がクラブに届いた。ミャンマー訪問とサイクロン被災について、松村光三前会長によるリポート。

子どもたちと村民の笑顔再び

松村光三
（前会長・ミャンマーゆうあい委員長）

私たち大阪中部ライオンズクラブは45周年記念事業を模索する中、今、世界中が関心を寄せる地球温暖化防止の対策として、マングローブの植林事業を行うこととした。費用対効果を考えて発展途上国での実施を検討し、ミャンマーを植林地に決定。NPO神戸ミャンマー皆好会を通じて、現地の環境NPO森林資源開発保全協会（FREDA）の協力が得られることになり、植林に加えて植林地近くの3小学校の教室改修を手伝うことも決まった。更に、辻吉治335-B地区ガバナー（当時）の助言を受けてLCIF一般援助交付金を申請し、8771ドルの資金を受けることが出来た。周囲の応援と環境に恵まれていたと感謝している。

2008年2月22日、周年記念事業実施に向けて有志会員7人と夫人2人の一行9人がミャンマーへ出発。目的地は旧首都ヤンゴンから南へ約60キロ、イワラジ川のデルタ地帯にあるクンチャンゴン地区シュレワイワ村だ。車で3時間、船に乗り換えて1時間半、最後は荷車のような乗り物に30分揺られて、ようやく到着出来る程の辺地であった。外国人の訪問は初めてらしく、村中総出の歓迎を受けた。

訪れた小学校の教室は、机もいすも

サイクロン被災後、テントで勉強する子どもたち。現地からの報告で、クラブが植えたマングローブの一部が、しっかりと根を下ろしたことも確認

なく、あるのは黒板だけの粗末なものだった。子どもたちにマングローブの大切さを語ると、大きな元気な声で返事をしてくれた。改修後は、新しい机といす、また奇麗な便所を使って、楽しく勉強してくれるに違いない。

植林計画では、2年間で村周辺の20万平方㍍に7万5千本を植える。開始式を無事に終え、最初の500本のオヒルギの種を土中に差し込むように植えていった。マングローブ植林が二酸化炭素の吸収に役立つばかりでなく、村民の仕事の糧となり、日本向けエビ養殖等で荒廃した漁場の復活、魚種の増加・増量、建築材料や燃料の確保、津波の被害防止等に大いに役立ってくれることを確信している。

このプロジェクトを立ち上げる際、「今なぜあのミャンマーで?」と心配する声を多く聞いた。しかし、この国の国民の85%は敬謙な仏教徒で、純朴な心を持ったすばらしい人たちであった。今回の訪問で、ミャンマー大好き人間になったことは言うまでもない。残念なのは国を治めているのが一部の軍事政権者であることで、この国のすばらしさを自由世界に披露出来る日が一日も早く来ることを願って止まない。

◆

再訪を願いつつ帰国してから3カ月半、サイクロンの来襲によりミャンマーの南部沿岸地域は潰滅的被害を受けた。軍事政権による規制で現地の情報は一向に入らず、村は8㍍の高波に飲まれ全滅したとの未確認情報に、苛立ちと悲しみは募るばかりだった。クラブは「ミャンマーゆうあい特別委員会」を設置し、救援金100万円相当をFREDAを通じて被災者に送った。

その後、現地入りしたFREDAスタッフの連絡で少しずつ状況が判明してきた。誠にうれしいことに、建物被害は甚大だったものの人的被害は少なく、あの粗末な小学校は跡形もなく吹き飛ばされたが、子どもたちはテントで勉強を再開しているという。子どもたちの元気な笑顔の写真も送られてきて、ひとまずホッとしている。

政府による学校再建計画はあるものの、時期は不明で何年先になるか全く分からないとのこと。この国の事情を思うに困難が予想されるが、今後は腰を据えて、子どもたちのため、村民のために、教育施設の建設に力を注いでいこうと思う。また、セレモニーで植えた500本のマングローブは、大半は流されてしまったようだが、全体の計画からすれば1%足らずで、十分やり直しがきく。

会員の総意を結集して、この事業を成功させたいと願っている。

CLUB REPORT
クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿は住所、氏名、クラブ名を明記の上、800字程度で。関連写真があれば添付してください

熊本県・天草本渡ライオンズクラブ

ソフトボール大会

天草本渡ライオンズクラブ（段下健一会長／66人）は5月31日、6月1日の2日間、「第24回　天草本渡ライオンズクラブ旗争奪　天草郡市青少年ソフトボール大会」を開催。天草市牛深、恐竜の島・御所浦など各地から、小学生53チーム、829人の選手が集まった。

開会式は錦島グラウンドで8時50分開始予定だったが、7時過ぎから車列が絶えない。駐車場整理担当の会員は大忙し。

来賓の安田公寛天草市長を始め、天草地区選出の県議会議員、審判団、大会役員、応援の保護者を交え、2千人近くが参加して、9時に開会式。シーズン最初の大会で、子どもたちもやる気に満ちたすがすがしい顔立ちだ。選手代表の力強い宣誓で大会がスタートした。

2会場で2日間にわたり、トーナメント形式で53チームによる全52試合が行われた。子どもたちの練習の成果が現れ、いずれも白熱した戦いで、数々のドラマが生まれた。

特に2日目、ベスト8の準々決勝・準決勝は、すばらしい試合の連続だった。決勝は本渡北小Aチーム対久玉小Aチームの戦いで、延長逆転の末、本渡北小が優勝した。

閉会式では優勝チームにライオンズクラブの優勝旗と賞品を贈呈。我がクラブの最長老、93歳のL山下義文も2日間参加し、子どもたちへのメダル掛けを手伝ってくれた。

審判以外は、青少年委員会を中心に大会準備から運営まですべて会員が行っている。今回の会員参加は延べ73人に上った。

後日、優勝チーム選手のお父さんと町で出会うと、知れず大会の話になった。彼の父君、選手の祖父は、クラブ会長も務めたことがある物故ライオンである。「ライオンの孫が活躍して優勝出来ました。もらったメダルを仏壇に供えました。親父が愛したライオンズクラブの大会で子どもが優勝出来たのは、何か人生の巡り合わせを感じます」と言われた時、大会を続けている意義を感じた。

この大会は天草のたくさんの子どもたちに、技術の向上と感動と思い出を与えていると自負する。24年間継続していることで、出場者からプロ野球選手が出たり、メンバーの娘婿が過去の大会のメダルを大事に持っていたりと、数々の逸話も生まれている。

（幹事／久木山初男）

連絡先→0969・23・0742

（編）長く継続するうちにこの大会やライオンズは、野球少年だけでなく地域のたくさんの人とのつながりが出来ているんですね。

神奈川県・海老名ライオンズクラブ

ボトルキャップをワクチンに

イラスト／篠田和夫

海老名ライオンズクラブ（荻原功麓会長／24人）では、ペットボトルのふたを集め、アジアの子どもたちにワクチンを届ける「ボトルキャップワクチン運動」に参加している。通常廃棄処分されるボトルキャップを集め、樹脂メーカーにプラスチック原料として売却し、利益で感染症ワクチンを購入、発展途上国の子どもたちに届けるものだ。ポリオワクチンの価格は1人分20円。キャップ４００個がこれに相当する。当クラブでは来年4月までに２５０人分のポリオワクチン購入額に相当する10万個の収集を目指し、今年3月、この活動をスタートさせた。ところが7月10日現在、会員がクラブ内外に呼び掛け、例会場や事務局に持参してもらうなどして集めた数は、既に4万3千個を突破。タウンニュースにも紹介され、7月23日（日）に開催されるえびな市民まつりの会場でも回収を計画しており、予定を大きく前倒しして目標突破しそうな勢いだ。

近年の環境に対する市民意識の向上で、ペットボトルの回収率は上がっているが、キャップの多くはボトルから外して捨てられているのではないだろうか。それが発展途上国の子どもたちの命を救うことが出来るのに。当クラブではこの活動が、人道的奉仕であり、同時に環境に優しく、子どもの健全育成にも役立つ有意義な活動であると、会員一同、手分けしてキャップ回収に勤しんでいる。　（前会長／荻原功麓）

連絡先↓０４６・２３４・２４８１

（編）発展途上国ではワクチン摂取率が低い国も多く、ポリオなどの感染症で命を落とす5歳以下の子どもは、世界で毎日4千人もいるのだそうです。

埼玉県・行田ライオンズクラブ

結成35周年を期に地域密着型奉仕

行田市には県名発祥の地・埼玉（さきたま）や、世界遺産登録を目指す丸墓山を始めとした古墳群、古代蓮の里公園がある。また、和田竜の小説『のぼうの城』の舞台、石田三成の水攻めにも屈しなかった忍城（おしじょう）も広く知られ、古代ロマンと歴史に彩られている。

そんな町に生まれた行田ライオンズクラブ（野口昭夫会長／49人）は5月11日、結成35周年記念例会を開催した。工藤正司市長を始め市関係者、スポンサーの大宮ライオンズクラブ、友好クラブ、ブラザー・クラブ、元地区ガバナー他、多数の方にご臨席頂いた。記念例会と祝典はスライド「この1年の奉仕活動」上映、記念講演、パーティーとつつがなく進み思い出に残るものとなった。

省みて、この記念すべき1年間は、クラブ活性化も奉仕事業の多くも、時代のニーズに合致し、地域社会に喜んで受け入れてもらえることに重点を置き活動してきた。継続アクティビティである春秋の献血、市内児童の海洋研究会招待、中学校対抗サッカー大会等の開催。また記念の年として市民の声に応え、4人の元プロ野球選手を招いての少年野球教室、古代蓮の里公園及びライオンズ桜の森への植樹、児童の通学時の交通安全を願って横断旗千本寄贈を行い、市民祭りへは大道芸団を招いて参加した。オープン例会では広く一般の方に参加を呼び掛け、寄席、講演会等も企画し、クラブのPRにも努めた。結果、クラブの諸活動が多くの皆さんの理解と共感を呼び、更なる支援、発展への激励を得るに至り、うれしい限りである。

行田ライオンズクラブは更に知恵と行動による魅力あるクラブへと前進すべく、次の40周年に向けてスタートを切った。（ＰＲ情報委員会委員長／長田敏）

連絡先↓０４８・５５９・０５００

（編）35周年おめでとうございます。更に深く地域に根付くクラブとなられることを祈念致します。

茨城県・下館シニア・ライオンズクラブ

アジサイ祭り開催

　下館シニア・ライオンズクラブ（須藤重雄会長／35人）は10年にわたり、県立生涯学習センターの構内、また進入道路の花壇に、アジサイの苗を植え続けてきた。その数、毎年100ないし200株。近年は見事に成長し、最盛期には鑑賞する人、写真を撮る人と、多くの市民でにぎわう市内の名所になった。毎年のように新聞にも取り上げられている。

　今年はクラブ会員が「最盛期に『アジサイ祭り』をやろう」と発案。これが盛り上がった。そこで生涯学習センターとそのボランティア・グループ、そして我がクラブによる実行委員会を立ち上げた。委員長はライオンズから、ということで私が拝命。6月14日に開催の運びとなった。

　突然のことでもあり、準備も十分ではなかったが、かなりの成果を挙げたものと思う。祭りの内容は、幼・小・中の子どもたちの写生会、高校生・一般の写真撮影会など。その作品を展示する絵画展、写真展も24日から29日まで実施。最終日には表彰式を行った。当日、ボランティア・グループが作ってくれた豚汁も大好評。これらの模様は、毎日新聞と茨城新聞に掲載された。

　来年は更に改善し、もっと盛大に実施しようと話し合っている。

（実行委員長／塚越喜一郎）

連絡先→0296・25・3511

（編）アジサイの数は今では1800株にもなっているそう。満開時、雨の日に見てみたい。やっぱりアジサイには雨なんですよね～。

栃木県・宇都宮おおるりライオンズクラブ

新生クラブ、認証状伝達式を盛大に挙行

　2007年度、333・B地区の分割で栃木県は単県地区となった。その最初のエクステンションとして誕生した宇都宮おおるりライオンズクラブ（山崎哲郎会長／30人）の認証状伝達式が、5月25日に盛大に挙行された。栃木県知事、宇都宮市長を始め多数の来賓と、井上幸一地区ガバナー、地区役員、県内のライオンズ会員ら計190人余りに出席頂いた。結成においては、スポンサーの宇都宮ライオンズクラブで中核となり、情熱あふれる行動力でライオニズムを説いた、ライオン森田陽子の姿があった。

　この新クラブではガバナー・スローガン「リ・デザイン」に応えるべく改革を念頭に、県内で最も低いクラブ会費を設定している。クラブ・スローガンは「はばたけ！　幸運を呼ぶおおるりのように」。

　認証状伝達式では、国際協会から贈られた認証状を井上ガバナーが山崎会長にしっかりと手渡した。

　続いて、スポンサー・クラブ会員、地区キャビネット役員からチャーター・メンバーの胸に、輝くチャーター・ピンがつけられた。

　式典のハイライトは、ライオンズの光。ピアノ伴奏と「1本の、小さな明かり……」のナレーションの中、会員一人ひとりが30本のキャンドルをともし、満場の温かい歓迎の拍手で祝福された。

　シュバイツァー博士は「一滴の水は無力のようでも、凍れば岩を砕き蒸気となれば巨大な機械も動かす」と言い、マザー・テレサも「一滴の水がなければ、大海もまたない」と言っている。これは個のライオンと組織の関係にも等しい。同クラブがおおるり色の鳥、幸せの青い鳥となって地域に、そして世界に幸せをもたらす存在となることを期待する。（第3リジョン第1ゾーン・チェアパーソン／坂本竹男）

連絡先→028・622・1009

（編）クラブ結成おめでとうございます。栃木県の県鳥オオルリのように、県（＝地区）のシンボルとなれるようがんばってください。

佐賀県・唐津レインボー・ライオンズクラブ

盲老人ホーム・サリバンと共に15年

唐津レインボー・ライオンズクラブ（野崎清市会長／45人）は今年も盲老人ホーム・サリバンの入所者21人をエスコート。唐津市郊外のジャスコ鏡店でのショッピングと食事の介助を行い、皆さんにとても喜んで頂いた。

サリバンは、唐津市と合併した旧相知町佐里という農山村の一角にある。果樹園や茶畑が広がり、近くには佐里温泉もわく。歌手・村田英雄の生地でもある。「♪小倉生まれで　玄海育ち　口も荒いが　気も荒い〜」と「無法松の一生」を始め、「人生劇場」「王将」と広く愛唱されている。茶陶の世界では「一楽二萩三唐津」とされる唐津焼の古い窯跡も多い。しかし、春夏秋冬、四季の変化に富んだ美しい景観も、サリバンの人々が見ることはかなわない。

視力障害があるお年寄りたちは、日頃一人で買い物をしたり、たくさんの人と食事をすることが、どうしても困難になる。少しでもこの方たちのお役に立ちたいと、15年前から始められた同事業。今では年1回の触れ合いとして定着し、楽しみにして頂けるようになった。6月9日の今年の招待には、21人（うち10人が車いす）の入園者と、介助の職員10人が参加。私たち会員は27人、うち7組が夫婦同伴で、介助案内も和気あいあいだった。

ジャスコ店内では入園者1人に2〜3人が付き添い、1階から2階へと目指す品物を求めて案内していく。

11時から1時間という限られた時間なので、それぞれ何を買うかあらかじめ決めている。一人の男性はラジカセ、別の人はシェーバー、ヘアドライヤーを買う人もいた。女性のショッピング介助ではライオン・レディーが活躍した。下着やブラウス、パジャマなど、十二分に感触を確かめ、値段と相談、納得して求めていた。

昼食は介助者とメニューを相談し、手伝いを受けながらおいしそうに召し上がった。

1時過ぎ、別れの時。浦田勤次期会長のあいさつで、再会を約束した。バスに乗った入園者と互いに手を振り、無事を祈り合った。

はや翌日、お礼の手紙を頂いたのである。（社会福祉・LCIF委員会委員長／本田明・PR委員長／古川工）

連絡先→0955・73・6849

（編）もし私が外で一人で買い物や食事が出来なかったら、介助してくださる方の来訪を待ちわびることでしょう。これからも長く続けてください。

富山県・高岡フラワー・ライオンズクラブ

出前講座で丘陵散策

高岡フラワー・ライオンズクラブ（新田昭一会長／40人）は4月6日、まちづくり出前講座「赤丸城趾散策と山野草とのふれあい」を開催した。地元・高岡の、早春の山野草・カタカゴと歴史ロマンを訪ね、更にお風呂付き・健康コースと銘打った、盛りだくさんのイベントである。

当日は183人もが参加する大盛況。朝9時に出発し、富山県定公園西山丘陵にある赤丸城や横穴古墳など、周辺の史跡を巡った。出前講座の講師として、高岡市文化財課の栗山雅夫氏に各所で説明を頂きながらの有意義な散策となった。他にもゲストに高田哲副市長や泉治夫富山県ナチュラリスト協会会長らに参加頂き、要所要所でお話を伺った。また、「自由塾」として砺波里山再生の会の4人を講師に、テーマごとに4班に分かれての探索もあった。参加者からは「身近な自然や史跡についていろいろ教えて頂きながら山歩きも楽しめる。頭も体も気持ちいい」と大好評だった。

北日本新聞にも大きく報道され、高岡ケーブルテレビでは何と1時間番組で放送された。

（環境保全美化委員長／竹内且勲）

連絡先→0766・23・3796

（編）今回の反響に応えるため、同クラブでは今後も、関係団体と共に地元の舞谷丘陵再生をテーマとした座談会など、更に活動の充実を図るそうです。

331-C地区第3リジョン

北海道洞爺湖サミット開催を記念して

7月に私たちの地域331・C地区で、世界8カ国のリーダーが集い洞爺湖サミットが開催されるに当たり、洞爺ライオンズクラブ（馬場孝男会長／13人）は早くから、何か協力出来ないものか、何か行動しなければと考えていた。

洞爺湖町役場に問い合わせると、ぜひ協力してほしいことがあるとのこと。サミット会場となるウィンザーホテル洞爺と国際メディアセンターを結ぶ国道230号線沿いに空地がある。長い間放置され廃屋となっていたマザー牧場というホテルを取り壊した後の、3千坪の土地だ。ここを公園化する計画があり、そのメーンとなる桜の植樹をお願いしたい。出来れば大きな木を植えてほしい、と。

しかし単一クラブでは力不足。そこで中嶋辛リジョン・チェアパーソンに相談。キャビネット会議に提案し、山本博地区環境保全委員長の力強い協力を頂けることとなった。承認を受け、第3リジョンの合同アクティビティとして6月8日、快晴の空の下、メンバー30人の他、後藤忍地区ガバナーも参加。会員夫人らの応援も頂き、国旗のついたタスキを掛けて、3～5メートルの中木、高木を植えた。桜は5種類、山桜、大山桜、サト桜、寒山、御衣黄。開花時期が違うので、1カ月くらいは桜を楽しめるそうだ。また、今回アクティビティの銘板を設置したので、公園を利用する多くの人に、ライオンズクラブを知ってもらえるだろう。

私たちも国道230号線を通るごと、車を止めて桜の木の成長を楽しもうと思っている。（第3リジョン第2ゾーン・ゾーン・チェアパーソン／半崎敏裕）

連絡先→0143・44・5144

（編）2050年には桜も大きく成長して奇麗な花をたくさん咲かせ、温暖化も飢餓も解決して皆が幸せに暮らしているといいですね……。

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→56ページ

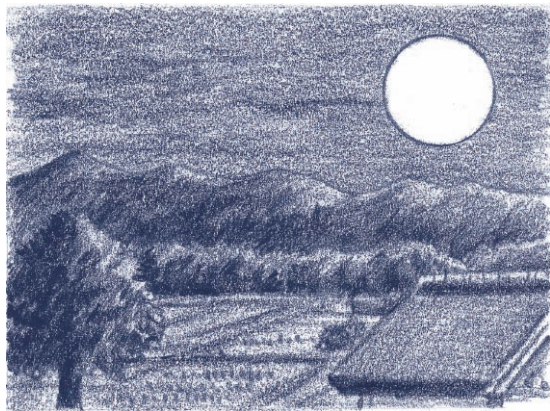
ライオン市川仁也を想（おも）う

茂尾　実（北海道・黒松内）

うす曇りの中、高速フェリーは静かに函館港の岸壁を離れた。

山本弘リジョン・チェアパーソン（函館巴ライオンズクラブ）、阿部岩男地区指導力育成委員長（函館中央ライオンズクラブ）、そして小生の3人が、青森ライオンズクラブ例会のビジター出席を許された旅の序章である。

地区のMERL委員長として小生はここ数年、退会率が最も高い3年未満の会員を対象に、ライオンズの理念や実態を伝えるためのオリエンテーションで、講師を務めさせて頂いた。その中で、ヘレン・ケラー女史が1925年の国際大会で「ライオンズよ、暗闇と闘う盲人の騎士たれ」と訴えたのを機に、ライオンズが視力保護・盲人福祉に力を注ぐようになったこと。また日本ライオンズの草創期、青森に住む青年が、アメリカのライオンズからの奉仕で失明の危機から救われたことをきっかけに、東北初のクラブが誕生したことなどを紹介してきた。このリッチランド・ライオンズクラブの国を超えたアクティビティは、ライオンズクラブの原風景であり、「市川仁也」というその青年の名前は、小生の中でいつの間にか増幅され、大きく育っていたのである。

小樽ライオンズクラブチャーター・ナイト50周年記念会に出席した時、奇遇は起きた。友好クラブの青森ライオンズクラブ会長としてライオン市川仁也が紹介された瞬間、小生の中に衝撃が走った。早速、小樽ライオンズクラブ会長に仲介をお願いして面会することになるが、この日はお祝いの席であったため、あいさつ程度で終わった。

イラスト／小川和政

その後、不躾を省みず手紙を差し上げた。これに対し、ライオン市川から丁寧な返信を頂き、小生は早速お礼の電話を掛けた。そして電話でお話しをするうち、「ゆっくりお会いして直接お話を伺いたい。人間市川仁也をもっと知りたい」という強い衝動から、「青森へお邪魔したい！」と叫んでいたのである。第4リジョン第1ゾーンの合同オリエンテーションでそのことを紹介すると、前出のお二人が興味を示し、同行されることになったのである。

例会場の青森グランドホテルで我々を迎えてくれたライオン市川は長身痩躯、白い長髪の風貌は大学教授を思わせた。考えてみると、実際にお会いするのは2回目なのに、旧知と錯覚させるくらいであった。例会が始まるまで、ホテルの喫茶コーナーでお話を聞くことになった。齢72の人生を語る気負いのない静かな口調に、我々3人は完全に引き込まれていた。

ライオン市川と青森ライオンズクラブの話は2007年4月号「こころのチキンスープ」を始め本誌で何度も採り上げられているので省略し、ここでは後日譚をご紹介したい。

市川青年は多くの人の好意と善意に支えられて人生最大のピンチを乗り越えた。退院後、同じ教会に通う女性から、すばらし

い就職の話が寄せられた。日本通運青森支店が、英語の出来る人を探しているということであった。市川青年はこれに見事合格、所属は海運課米軍関係輸送担当である。高校時代に通った教会のバイブルクラス（聖書研究、すべて英語で会話）の勉強がここで生かされ、その後の人生を大きく左右することになったのである。

業務の一方で、向学心を抑えきれず、上司に相談の上、許可を得て通信教育で日本大学商学部を卒業。その頃から青森港にも外国船が入港するようになり、それらはすべて彼が担当することになった。39歳で海運係長の時、本社国際輸送部に転勤を命じられ、中近東向けプラント輸送と現地との対応業務を担当。更に1年後、サウジアラビアで現地作業を監督指揮することになった。日本通運には62歳まで勤められ、退職後、国際輸送コンサルタント事務所を立ち上げた。そして、それとほぼ同時に、青森ライオンズクラブから招請を受け入会、同クラブ結成50周年の会長を務めたのである。

敬虔なクリスチャンであるライオン市川は、「私の人生は、神のご計画の下、多くの人たちの善意と好意に助けられ支えられてきたのだと、深い感謝と感動を禁じえない。ライオンズクラブは困っている人を助ける奉仕の会です。会員の方たちは、皆奇麗で温和な目をしている人ばかりです。それぞれ自分の仕事を持ち忙しいでしょうに、献金を募ったり奉仕をしたり、本当に尊敬します。一握りの力しかない自分でありますが、今後の人生を、少しでも人のため、社会のために役立つことが出来れば……」と語る。その姿勢はあくまでも気高く、誇りに満ちたものを感じさせた。

ちなみに青森ライオンズクラブの名刺には「それは、一人の青年に光と希望を与えることから始まった」と記されている。

（広告美術業・65歳）

立哨

二ツ木 悦男（鹿児島県・宮之城）

「おはよう！」

「おはようございます」

元気な声が返ってくる。

２００８年4月8日、生まれて初めてのランドセルを背負っての初登校。高い高い信号に一生懸命視線をやりながら、緊張にホッペを赤く染める新1年生。横断歩道をやっと渡り、ホッとしたのもつかの間、重いランドセルを一揺すりして、不安と期待に胸弾ませて、それでも元気よく歩いて行く。思わず、その小さな背に「いってらっしゃい」。思いを込めて声を掛ける。

4月15日（火）

あれから1週間、当初、こわばっていた子どもたちが、笑顔で返事してくれるようになった。うれしい。でも車は怖い。よし、明日もがんばってあげよう。

5月1日（木）

「おはようございます！」

子どもたちの方から元気なあいさつが来るようになった。目と目も合う。一人ひとりの顔もよく分かる。目線の高さを合わせる大切さを知る。ありがたい。もうすぐ大型連休、ちょっぴり寂しい気分になりながら「横断中」の黄色い旗を巻く。

よし来週もがんばろう。子どもたちの笑顔との出会いを大切にするために。

5月20日（火）

1年生の子どもたちに「○○ちゃん、おはよう」。と呼べるようになった。反応が違う、すれ違う時に手を挙げる子どももいる。

中学生たちも、ようやくあいさつするようになる。通る車の人も会釈してくれる。うれしい。実に楽しい。「笑顔とあいさつ」。第一、健康に良い。明日もがんばらなくちゃ……自分のために……。

初日は、宮之城ライオンズクラブのアクティビティとしての交通安全立哨だった。が、子どもたちの笑顔につられ、果ては自分の健康のためになるのに気付き、毎朝続けている。

私どもの宮之城ライオンズクラブは、3年後に45周年を迎え、私も在籍36年になる。最盛期50人近くいた会員は25人になり、常時例会に出席する者は12人、町の過疎化もさることながら、誠に汗顔の至りである。

アクティビティの一つ、月2回の早朝立哨は3カ所で実施し、6～8人の会員が制帽に腕章をつけて立つ。地域密着の広告塔を気負って立った4月の初日が、偶然にも新1年生の登校日だった……ということである。

今のところ孤独の立哨ではある。私の心の動きがそうであったように、やがて同志に伝わり、町の大人たちに伝わってゆく……。その日が来ることを夢見ながら、明日も、そして明後日も、自分のため、そしてライオンズのためにがんばりたい。

（家具店・74歳）

アマチュア無線によるアクティビティ

金川　孝幸（東京都・八丈島）

国際協会の「国際協調に関する方針宣言」は、ライオンズ会員は国際社会のメンバーでもあるとした上で、「ライオンズクラブ国際協会はその目的第一項で『世界の人びとの間に相互理解の精神をつちかい発展させる』と述べている通り、おのおののライオンズクラブ及び個々の会員が国際協調を実現させるべく全力を尽くすべきものであることをここに宣言する」と結んでいます。

しかし現実は、一部のクラブを除き、国際協調に関するアクティビティはあまり行われていないのではないでしょうか。ちなみに「方針宣言」には、国際協調の活動として青少年交換、ユースキャンプ、姉妹提携、親善、文化活動、教育サービスなどが挙げられ、アマチュア無線の活動もその一つに含まれています。

アマチュア無線は電波を使い、日本国内のみならず全世界と交信することが出来ます。国際的な奉仕団体であるライオンズクラブとしての力を発揮するには、会員間のネットワーク構築が必要になることから、国際協調の活動としてアマチュア無線が加えられているものと思います。

また、アマチュア無線は個人的な趣味のために、限られた公共の電波を使わせて頂いている代わりに、山岳や海のレジャー時の遭難救助や、地震などの大規模災害により公共の通信手段が切断された時には、非常通信による社会貢献を行っています。災

害対策本部へ食料や医薬品の確保要請を行ったり、遭難事故の際には救助のヘリコプターを誘導し人命救助に役立ったなど、数多くの活動例が報告されています。

ライオンズクラブとしてアマチュア無線活動をアクティビティに採り入れる場合、具体的な活動として、災害や非常時の対応が考えられます。また、外国との交信により国際協調を促進することも出来ます。アクティビティは会員の奉仕の精神に基づき、個人の貴重な時間や労力を提供する活動が多い中、間接的ですが、アマチュア無線という趣味そのものが社会に貢献出来る活動であると共に、各クラブの課題となっている会員増強や活動のPRにも役立つのではと考えます。趣味を通してライオンズクラブの趣旨や活動を伝え、新たな会員をお誘いする手段にもなると思うのです。派手で目立つ活動ではありませんが、このような地道な活動も大切ではないでしょうか。

日本のライオンズクラブのアマチュア無線活動は群馬県・高崎ニューセンチュリー・ライオンズクラブを中心に行われ、同クラブの主催で、電波による例会とも言える「ライオンズネット」や、会員間の交流やライオンズクラブをPRするための「ライオンズQSOパーティー」などが実施されています。が、一つのクラブでの活動には限界があり、少しでも多くの理解と協力を得ることが必要になります。

ライオンズクラブのアクティビティにはこのような活動もあることを知って頂き、クラブや地域の枠を超え、アクティビティの一つにアマチュア無線による活動を加えてください。また、ライオンズクラブ会員でアマチュア無線を趣味としている方、今後免許を取得したいと考えている方、世界最大の奉仕団体であるライオンズクラブのメンバーであることへの誇りを持ち、ぜひ活動に参加してください。（金融機関・53歳）

獅子吼

ライオンズクエスト・ワークショップに参加して

武波 博行（山口県・楠）

昨年秋、倉益芳太副地区ガバナーから、ライオンズクエスト・プログラムに関心を示していた私に、次期担当委員長就任の打診がありました。プログラム普及活動を推進するためにはまず内容把握から、と本年4月26、27の両日に東京で開催された「思春期のライフスキル教育」プログラム・ワークショップに参加しました。

26日、当日は曇り空。会場の日本財団ビルまで宿泊先から歩いて行きましたが、土曜日とあって、官公庁周辺の通りは閑散としていました。東京の街イコール雑踏というイメージがあった私は、いささか拍子抜けしましたが、固い頭を柔軟にしなさいというサインだったのかもしれません。

今回の参加者は2クラス60人以上で、私どものクラスは37人。ライオンズ会員は私を含め3人です。保護者の方や自ら申し込まれた教師も参加されていましたが、ほとんどが既にプログラムを導入している中学校・高校の教員です。ワークショップを修了しないとプログラムが実施出来ないことから、着任早々の参加ということでした。

緊張の中、ワークショップがスタート。まずは、岡松佐知子講師からプログラムの概要説明がありました。プログラムがどうやって誕生したか、また「ライフスキルとは日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会能力である」とWHOが定義付けているなど基礎知識の解説です。

その後、自己紹介として、エネジャイザ

ー「名前のキャッチボール」を実施しました。ぬいぐるみを持ち、自己紹介が終われば隣以外に手渡します。この時、手にするものはボールや茶筒でも良いが、ぬいぐるみは手に持った感触が良く、子どもたちにとってリラックス出来るなど、エネジャイザーの効果や注意点についての説明もあり、実践しながら学べるようになっていました。「エネジャイザー」とは耳慣れない言葉ですが、よくワークショップなどで使われる「アイスブレーキング」と同じです。

授業の紹介では、最初に単元2の「本当の自信とコミュニケーションの形成」から「上手に聞く方法」を学習。まず講師が聞き役となり、参加者が話し役となってのロールプレイを実施。次にロールプレイングでの注意点を教えられた後、二人ずつ向き合っての聞き上手チェックでは、私自身があまり出来ていないことに反省させられました。このワークショップは我々自身（教師）の普段の行動を見つめ直す機会にもなりそうです。

午前の部の最後に、ブレーンストーミングによる「東京ワークショップ」のルール作りをしましたが、これも学校での学級ルール作りの体験であり、このワークショップ全体が、指導法となっていることが理解されます。

午後からは「青少年」からイメージする言葉を短冊に書き出し、その短冊を良いイメージと悪いイメージに分け、大人の支援策の言葉を含めてポスターを製作しました。青少年を可能性のある人材として育むというメッセージを伝えるためのポスターを、どのように表現するかグループで話し合い、協力しながら時間内に仕上げます。

協力することで互いを認め合うことが出来、自分たちで決めた「時間を守る」というルールを守る。このようにワークショップは、さまざまなスキルを体験しながらプログラムを学ぶように構成されています。

翌27日はグループに分かれ、参加者が教師役と生徒役となって模擬授業を実施します。午前中は講師から指定された単元の授業案作り。教師の方たちはスムーズに授業構成を作成します。さすが慣れたものです。また、当然のことながら、授業も堂に入ったもので、生徒を指導した経験のない私には戸惑いの時間でした。

ただ、授業の流れの中で、「活動」と最後の「まとめ」で戸惑う教師が見受けられました。ライオンズクエストの授業は指導型というより、ワークショップの講師としてのスキルが要求されるからでしょう。プログラムを通して、教師もその能力を身に付けることが出来ます。

ワークショップをすべて紹介することは出来ませんが、体験してみますと、参加体験型のこのライオンズクエスト・プログラムが、非常に良く出来ていることが実感できました。

このすばらしいプログラムを子どもたちに届けるために、我々ライオンズクラブが出来る支援があります。学校に、保護者に、そして地域にこのプログラムを理解して頂くため、セミナーや体験会を開催することです。そのためにはまず、我々自身がこのライオンズクエスト・プログラムを理解することから始めてはいかがでしょうか。

（小売業・58歳）

Close up

思い通りにいかない。だから楽しい刀作り

刀作りというのは面白いもので、作れば作る程分からないことが山のように出てきます。材料の玉鋼を炉の中で１２００度に熱し、鎚で叩いて成形していくのですが、同じやり方で試みても、仕上がりは作る度に違う。しかも思った通りにいかないことがほとんどです。反省点を整理して「次こそは」と、まだ見ぬ一振りに思いを馳せる……刀作りというのは、言ってみればこの繰り返し。でもその過程が何よりも楽しいんですね。鍛冶屋冥利に尽きる仕事です。

今の世の中、日常生活で刀が使われることとなんてありませんから、刀作りは商売になりません。だから刃物屋にしてみれば、当然売れるものを作ることが優先されます。農業用の鎌や鍬、山林用のマサカリといった業務用刃物や家庭用の包丁など。18歳の時から親父のもとでこの仕事を始めましたが、そんな日用品を作りながら「いつかは刀を作ってみたい」という夢を抱いていました。

鍛冶職人を目指す子どもは普通、尋常小学校卒業と同時に親方に弟子入りします。だから20歳で既に一人前。鍛冶の仕事場が身近だったとはいえ、私のスタートは少し遅かったかもしれません。でも親父にしてみれば、こんな私でも貴重な戦力だったはず。早く息子に仕事を覚えさせて、空いた時間で刀作りに没頭したかったんじゃないかな。親父は根っからの刀好きでしたからね。

刀の材料となる玉鋼（奥）は叩いてチップ状にして使う

私もそう。日曜日も休みなく働いていましたから、8年前に社長を退くまで落ち着いて刀を作る余裕なんてなかった。だから今、こうしてじっくり鎚を振るっていられることに喜びを感じています。きっと親父もこんな気持ちだったのだろうと、改めて思いますね。

刀というのは、作った人の仕事に対する情熱が表に出るものなんです。いい刀は随所に手間が掛けられていて、いい加減なところが一つもない。親父が作っていたのもそんな刀でした。きらびやかさはないかもしれないけれど、きちんとした鍛え方をした刀。人間に例えると、白いワイシャツにネクタイをきちっと締め、紺の背広を羽織ったような一振り。私もそんな仕事が出来ればと思っています。

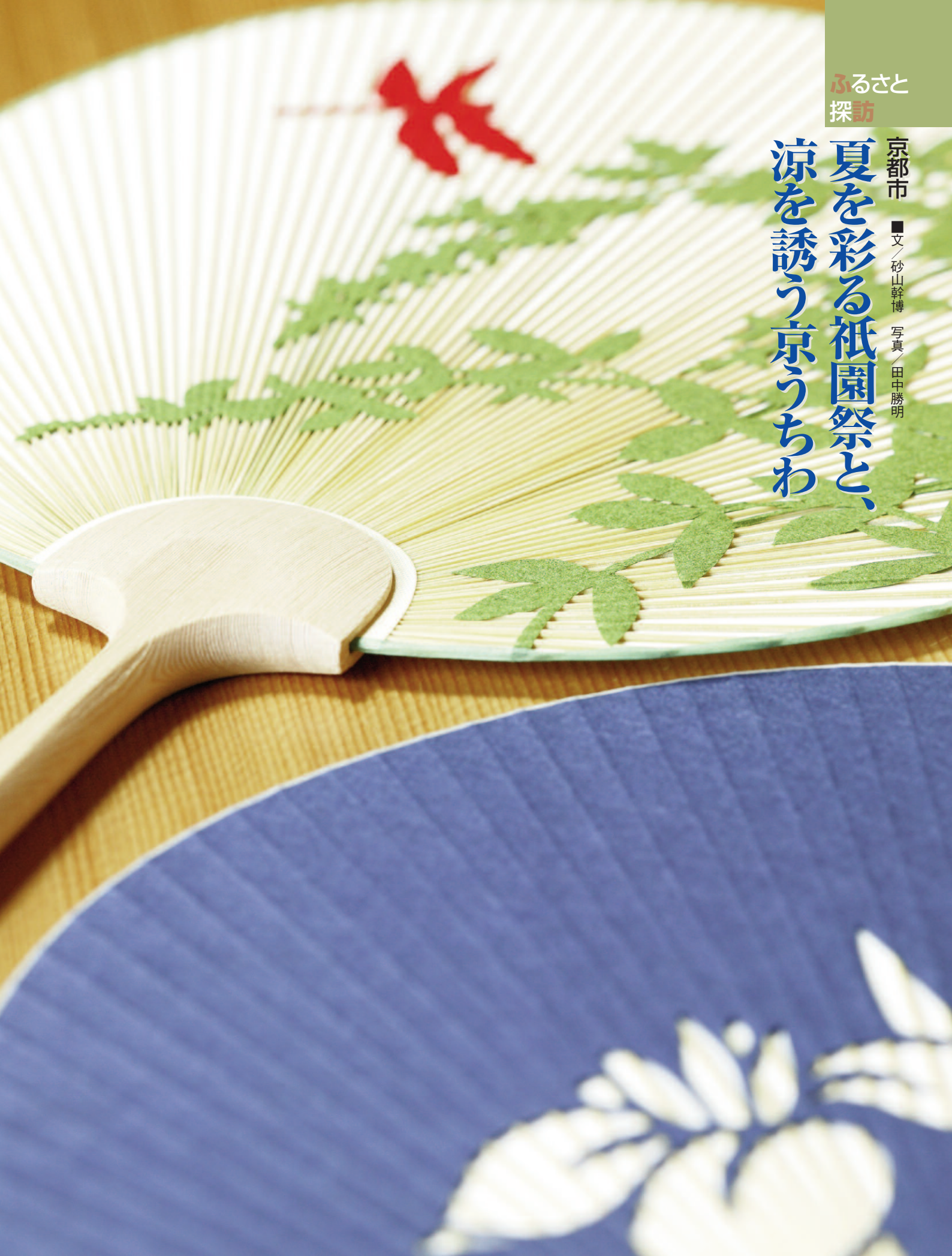
■二唐俊（号）国次

青森県・弘前津軽ライオンズクラブ。1934年弘前生まれ。鍛冶職人。津軽藩お抱えの刀鍛冶の家に生まれ、53年に地元の工業高校を卒業すると、家業である刃物鍛造所に入社。農業用、家庭用刃物などを作る一方で、父・国俊の下、鍛刀技術を学ぶ。父の跡を継いだ会社からは8年前に退き、現在は自宅裏に設けた工房で刀作りに励む毎日。2004年に、「卓越した技能者（通称・現代の名工）」として厚生労働大臣から表彰を受けている。

構成／砂山幹博　写真／田中勝明

京都市

夏を彩る祇園祭と、涼を誘う京うちわ

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

元禄2年創業の阿以波の店内。「片透うちわ」や「両透うちわ」などいろいろな種類のうちわが飾られていた

骨に薄く糊を付け、紙に張り付けていく仮張りの作業

使用する糊は米と麦で出来た自然糊。部位によって粘着力の強弱を調整する

ルーツは宮廷絵師が描いた御所うちわ

盆地にある京都の街は、冬は底冷えし夏は蒸し暑い。繰り返す季節の中で、寒さや暑さとどう向き合うか、この地に暮らす人々は工夫を重ねてきた。例えば涼を取り入れる知恵などは、今も街の随所で見ることが出来る。代表的なものが、夏になると貴船や高雄、鴨川に現れる納涼床や川床。涼を取りながら食事を楽しめる季節限定の桟敷は、京都の夏の風物詩である。

鴨川沿いの納涼床で、うちわを片手にビールを飲む人の姿も見られる。涼やかなそよ風を起こすうちわも、暑い夏に欠かすことが出来ないものの一つだ。京都だけで作られている「京うちわ」の老舗、阿以波（あいば）さんを訪ねた。京の台所、錦市場を一筋上がった趣きのある京町屋がそのお店。店内には、竹で出来た骨が美しく並んだうちわが飾られていた。

「京うちわの大きな特徴はその形にあります。京都以外の産地では竹を割り骨を広げて作るため、風を起こす地紙面と柄が一体になった構造ですが、京うちわは地紙面に後から柄を差し込む『差し柄』の構造になっています」

と説明してくれたのは、阿以波の代表饗庭智之さん（京都ライオンズクラブ）。

差し柄のうちわは朝鮮王朝の流れをくむもので、南北朝時代に日本にもたらされ、江戸時代になって京都に定着した。当時、宮廷御用として名を馳せた狩野派や土佐派の絵師らが、御所のふすまや調度品に彩色を施したが、この時うちわにも絵を描いた。蒔絵なども施された豪華なそれは「御所うちわ」と呼ばれ、現在の京うちわの元になっている。

あおいでも、目で見ても涼しい京うちわ

京うちわ作りは、竹から細い骨を取ることから始まる。骨は竹の繊維に沿って割っていくため、竹は真っすぐでよく締まったものほど良い。阿以波では4、5年平地で育ち、ある程度の固さになった丹波の竹を使う。皮を剥いだ身の部分に約０・５ミリの刻みを無数に入れて、繊維に沿ってもみほぐしながら竹を割っていく。一方、骨に張り合わせるうちわ紙の素材や模様には、特別な決まりはない。和紙に木版や手描きで絵を描いたものから、友禅や箔といった高級素材までいろいろある。

「刺繍が好きな人が、自分で刺した刺繍をうちわにしたいというオーダーもあります」（饗庭さん）

骨と紙を張り合わせる作業は、まず「仮張り」から始まる。一つのうちわに使う骨は60~１２０本。薄紙の上に等間隔で放射状に並べて糊付けしていく。この作業によって、骨を面でとらえ、ゆがみのない奇麗なうちわ面を作ることが出来る。続いて、裏面にうち

わ紙を張り、仮張りを剥がした表面にも張ったら、骨と紙が接する際にヘラで筋を付けていく。筋が付くことで、あおいでも紙が伸びて、うちわはよくしなるようになる。周りを決まった大きさにカットして縁に和紙を張り、最後に柄を取り付けると完成だ。

　ものによっては、表の紙が紋様だけで骨の大部分が見えている「片透うちわ」や、紙が張っていない部分もあり、向こう側が透けて見える「両透うちわ」というものもある。両透うちわは、「目で見て涼を取る」目的で先代が考案したもの。しかしこの「目で見る」うちわに、饗庭さんは戸惑ったという。

「工芸品は使われて初めて評価されるべきだと考えていましたから、うちわを飾り物にしてしまう親父の考えにはついていけなかったんです。だけど、風鈴が鳴る音と同じでうちわを見て涼しいと思う人がいて、玄関のお花を変えるのが少し面倒だから代わりにうちわを置いて夏を楽しむ人がいる。飾ることも一つの用途なんだと、ここ数年でようやく思えるようになりました」

　かつて、うちわはあおぐだけではなく、高貴な人の顔を隠すためのものであったり、戦の中で軍を率いる軍配として使われていた。こうした変遷を見ていると、確かに「目で見て涼む」使われ方があってもいいと思える。

❶奥は復元新調された、現在の「見送り」。手前は信長献上と伝わるもの。赤の鮮やかさが際だつ
❷徐々に形になってきた長刀鉾。同じく京の夏を彩る京うちわがぴたりとはまる
❸祇園祭「神輿洗い」の神事。神職が鴨川の神水をひたした榊を神輿に振りかけてお清めする

2

1

祇園祭が暑い京都を更に熱くする

ひょっとするとこの祭りの熱さが、京都の暑さの一因かもしれない。祇園祭。言わずと知れた日本三大祭の一つに数えられる八坂神社のお祭りである。一般に16日の宵山と、17日の山鉾巡行で知られるが、実は7月1日の吉符入から31日の夏越祭まで1カ月にわたって開催されていることはあまり知られていない。取材で京都を訪れたのはクライマックスの山鉾巡行を1週間後に控えた7月10日。街は祇園祭一色に染まり、各鉾町の路上では釘を1本も使わず木材と縄だけで鉾を組み立てる「鉾立て」が始まっていた。

古来、必ず巡行の先頭を行く長刀鉾の周りにも、多くの見物客が集まっていた。㈶長刀鉾保存会の寺川哲雄さんの計らいで、長刀鉾の後ろに垂れ流す「見送り」を特別に見せてもらうことが出来た。実はこの見送り、2005年に京都ライオンズクラブも資金援助をして復元新調されたものである。

「聞くところによると、前のものは、織田信長が献上したものだそうで、これまで痛んだ部分は何度も修復しながら使っていました。だいぶ色落ちしていましたが、裏側に残っていた元の色を再現したら、鮮やかな赤が蘇りました」

この見送りが取り付けられるのは17日の山鉾巡行当日のみである。

この日は他にも祇園祭の行事があり、鴨川の水の神様を神輿に迎える神事「神輿洗い」や、その神輿をお迎えする「お迎え提灯行列」が行われた。お迎え提灯行列は、江戸時代、芝居小屋が集まっていた四条大橋の芸人・役者衆が提灯に火を入れ、鳴りもの入りで神輿洗いの神輿をお迎えしたことに由来する。現在の主役は、芸人・役者衆ではなく下は3歳から11歳の子どもたち。祇園囃子の調べにのって、鷺の姿に扮して踊る鷺踊りなど趣向を凝らした行列が祇園界隈を練り歩く。

郷土自慢・クラブ自慢

数ある名産・特産の中から、京都ライオンズクラブが選んだ郷土自慢は、湯葉。もともと禅寺のお坊さんの貴重なタンパク源であったが、今では京都の懐石料理に必ずといっていいほど登場する食材となった。原材料が大豆と水だけのシンプルな食材、それだけにごまかしはきかない。錦市場のそばに店を構える京湯葉千丸屋（ライオン越智忠太郎）では、今もこの地に湧き出した清らかな湧水で湯葉を作り続けている。「強烈なインパクトはないかもしれないが、毎日食べても飽きない上、幅広い使い方が出来るとあって、最近では日本料理だけではなく、フランス料理などにも使われています」（ライオン越智）

▼京都ライオンズクラブ（永樂善五郎会長／96人）＝1953年10月12日結成／スポンサー：神戸ライオンズクラブ

■京都ライオンズクラブから読者プレゼントがあります（56ページ）

2008年10月号予告

THEME ALERTプログラム

ライオンズALERT（アラート）プログラムは、災害などの緊急事態に的確に対応し、人々に必要な支援を提供することを目指す。9.11同時多発テロの救援活動を体験したブランデル国際会長へのインタビューと、プログラムの解説。また、緊急援助においてライオンズが期待される役割について、専門家の提言を聞く。

読者プレゼント

京うちわと京湯葉をそれぞれ3人の読者に

「ふるさと探訪」（51ページ）に登場した京都ライオンズクラブから、取材にご協力頂いた阿以波（ライオン饗庭智之）の京うちわと、千丸屋（ライオン越智忠太郎）の京湯葉がそれぞれ3人の読者にプレゼントされます。

プレゼントの京うちわは長めの柄を使った小粋な片透かしうちわです。当選の場合、色柄の選択は当方にお任せ頂きます。千丸屋の京湯葉は、創業から200年余り受け継がれてきた風味豊かな伝統の味。プレゼントは乾湯葉の詰め合わせです。

応募要領：はがきに住所、氏名、電話番号、クラブ名を明記し、ライオン誌「京うちわ」もしくは「京湯葉」プレゼントあてに。本誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0）からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は9月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

ライオン誌投稿要領

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。▼住所、氏名、クラブ名を明記。

■**クラブ・リポート**44〜48ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■**獅子吼**49〜53ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。職種、年齢を明記。

■**エブリデー・ヒーロー**8月号50ページ：ライオンズクラブにまつわる「ちょっといい話」をお寄せください。800〜2,000字程度で。会員家族、事務局員の投稿も歓迎。

送付先：
〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630　E-mail：edit@thelion.jp

築地通信

●昨日、仕事帰りの電車はいつも以上の大混雑だった。沿線で花火大会があったからだ。浴衣姿があふれ、いつもと変わらぬはずの車内も華やかな空間となり、少しだけ涼しい気持ちになった。今週末は隅田川花火大会、再来週には築地からも見られる東京湾大華火祭が開かれる。毎年暑さに負けて、なかなか出向くこともないが、今年は行ってみようかな。（よしだ）

●**訂正とお詫び**

本誌7、8月号で以下のような誤りがありました。

7月号23ページ「地区ガバナー紹介」で、柳原宏行334-C地区ガバナーのアクティビティ・スローガンにある「協働」は正しくは「共働」でした。

8月号15ページTHEME「バンコク国際大会」の記事中、CSFⅡの獲得総額が2億329万ドルとあるのは、正しくは2億32万9千ドルでした。35ページ「バンコク国際大会でのMJF関係表彰」の100％MJFクラブのうち、東京巣鴨、埼玉県・川口西両クラブは2回目の表彰でした。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

7・7	東京	加藤　光晴
7・9	東京葛飾	舘　親光
7・23	東京葵	伊賀　則夫

ゴングの響き

「会長、開会のゴングをお願い致します」
　ライオン・テーマーが促す。カーンという響きと共に、ライオンズクラブの例会は開会する。
　先年、30年来の友人であるＯ(ライオン)が、彼の長年の趣味である鐘の研究を、『梵鐘覚書』として自費出版した。450ページの大作である。縁あって私は、その前書きを記す機会を得た。

ライオン誌
日本語版委員
◉
渡邊豊隆

　彼の説によると、洋の東西を問わず、教会の洋鐘、寺院の梵鐘は、形状、音色は異なれども、淵源、歴史、用法の軸を一にしており、希求するところは平和への祈りであるという。
　西洋は音楽的に、東洋は文学的に聞かれる鐘は、人々に時を告げる「時の鐘」としても日常生活に欠かせないものであった。有名な埼玉県・川越のそれのように、皆さんの地域にも古くからの時の鐘が残っていることだろう。
　奈良時代から脈々と続けられている東大寺二月堂のお水取りも、鐘の合図により粛々と行われるそうである。
　嫋々たる鐘の音には逸話があり、流転があり、受難もあった。人の歴史と共に時を重ね、興味深い時代を見つめてきた。平和を祈る鐘の音も、時として心ならずも戦乱や災害を伝える警鐘であらねばならぬこともあった。
　我々が例会の度に聞くゴングの音も、各ライオンズクラブ結成以来の歴史を今に伝えている。
　果たしてそれは、平和の警鐘だけであったのだろうか。ライオンズへの警鐘を聞き逃してはいなかっただろうか。
「会長、閉会のゴングをお願いします」
　ライオン・テーマーの声が聞こえる。
　今日、このゴングの音を聞き、諸兄と共に感謝と平安を祈りながら、クラブ活動を反省するよすがとしたいと思うのだが。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages - English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

EXECUTIVE OFFICERS
President, ALBERT F. BRANDEL, 14 Herrels Circle, Melville, New York 11747-4247 USA; Immediate Past President, MAHENDRA AMARASURIYA, No. 70, Fife Road, Colombo 5, Republic of Sri Lanka; First Vice President, EBERHARD J. WIRFS, Am Munsterer Wald 11, 65779 Kelkhem, Germany; Second Vice President, SIDNEY LEE SCRUGGS, III, 698 Azalea Drive, Vass, North Carolina 28394 USA.

DIRECTORS
BISHNU BAJORIA, West Bengal, India; MALIK KHUDA BAKSH, Karachi, Pakistan; DANA BIGGS, California, USA; KEN BIRD, Queensland, Australia; ERMANNO BOCCHINI, Napoli, Italy; WAYNE E. DAVIS, Virginia, USA; RYUICHI GOTO, Chiba, Japan; DR. PATRICIA HILL, Alberta, Canada; KWANG-SOO JANG, Ulsan, Korea; LARRY G. JOHNSON, West Virginia, USA; MAURICE M. KAHAWAII, Hawaii, USA; SHINJI KAYAMORI, Aichi, Japan; VINOD KHANNA, New Delhi, India; EDWARD J. LECIUS, New Hampshire, USA; DOUGLAS A. LOZIER, Indiana, USA; SHYAM MALPANI, Mumbai, India; ART A. MARSON, Wisconsin, USA; DR. JERIMIAH MYERS, Alaska, USA; ELLIS SURIYATI OMAR, Kuching, Malaysia; DR. HAROLD R. OTT, Pennsylvania, USA; GEORGES PLACET, Ludes, France; TAPANI ANTERO RAHKO, Järvenpää, Finland; EUGENIO ROMAN BAEZ, Arecibo, Puerto Rico; BOJAN SOBER, Rijeka, Croatia; DR. TON SOETERS, Huizen, The Netherlands; NEIL R. SPENCER, Florida, USA; BEVERLY L. STEBBINS, Texas, USA; TADAO SUGIMOTO, Hokkaido, Japan; PROF. DR. HAYRI ÜLGEN, Istanbul, Turkey; ROSANE JAHNKE VAILATTI, Penha, Brazil; NELSON VIDAL, Lima, Peru; VINCE VINELLA, Nevada, USA; DEBRA WASSERMAN, Minnesota, USA; WILLIAM B. WATKINS, SR., Tennessee, USA.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

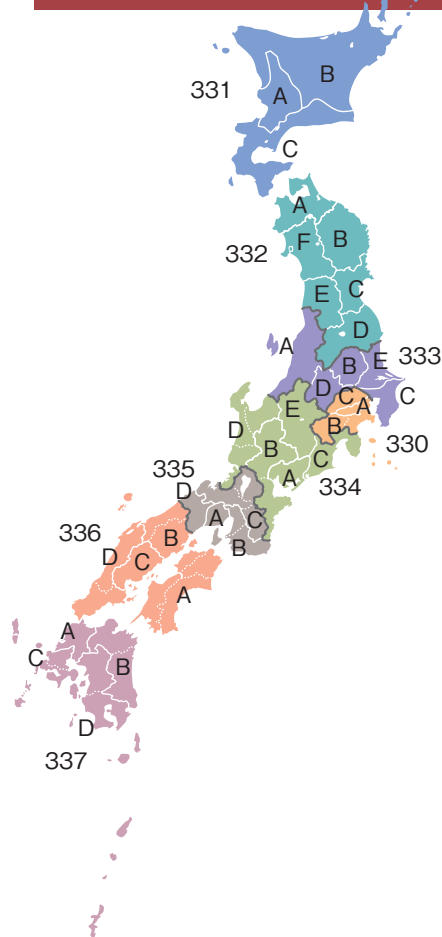
ライオン誌日本語版委員会
国際理事　後藤隆一
国際理事　栢森新治
国際理事　杉本忠夫
委員長　山根　健（336複合地区）
編集長　坂井　正（333複合地区）
委　員　渡邊豊隆（330複合地区）
委　員　瀧澤嘉門（331複合地区）
委　員　坂本和彦（332複合地区）
委　員　小岱義正（334複合地区）
委　員　大島康男（335複合地区）
委　員　塩倉安伸（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571（代）　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2008.6.30　各地区キャビネット事務局集計

地区	都道府県	■クラブ数	期首からの増減	■会員数	期首からの増減
330-A	東京	205	1	5,126	-123
330-B	神奈川・山梨・東京	193	2	5,227	-270
330-C	埼玉	104	0	2,774	-81
330	計	502	3	13,127	-474
331-A	北海道（道央）	77	0	2,739	-16
331-B	北海道（道北・道東）	94	-2	2,756	-118
331-C	北海道（道南）	61	0	1,951	-56
331	計	232	-2	7,446	-190
332-A	青森	68	0	1,975	-61
332-B	岩手	56	0	1,727	-49
332-C	宮城	82	-1	1,558	-129
332-D	福島	77	0	2,099	-80
332-E	山形	58	1	1,930	-35
332-F	秋田	52	-1	1,336	-117
332	計	393	-1	10,625	-471
333-A	新潟	80	0	3,017	44
333-B	栃木	57	1	1,429	60
333-C	千葉	135	4	3,603	85
333-D	群馬	56	0	2,047	-23
333-E	茨城	81	1	3,058	232
333	計	409	6	13,154	398
334-A	愛知	119	1	5,766	-68
334-B	岐阜・三重	87	0	3,901	-96
334-C	静岡	84	0	3,368	-106
334-D	富山・石川・福井	100	0	4,267	-45
334-E	長野	53	0	2,196	-71
334	計	443	1	19,498	-386
335-A	兵庫（東）	109	3	2,896	33
335-B	大阪・和歌山	205	1	6,685	-212
335-C	滋賀・京都・奈良	122	-1	4,366	-204
335-D	兵庫（西）	66	0	2,139	-111
335	計	502	3	16,086	-494
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	156	0	6,179	-139
336-B	鳥取・岡山	99	0	3,540	-144
336-C	広島	105	-1	3,907	-110
336-D	島根・山口	106	-3	3,523	-142
336	計	466	-4	17,149	-535
337-A	福岡・長崎	118	-2	4,737	-182
337-B	大分・宮崎	84	-4	2,613	-205
337-C	佐賀・長崎	84	-1	3,116	-135
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	144	1	4,371	-137
337	計	430	-6	14,837	-659
総計		3,377	0	111,922	-2,811
世界のライオンズの		7.5%		8.6%	

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2008.6.30　国際協会集計

ライオンズ国または領域	202
世界のクラブ数	44,997
世界の会員数	1,305,638
期首からの増減	15,808

国	クラブ数	会員数
アメリカ	12,814	381,667
インド	5,138	157,456
日本	3,383	112,519
韓国	1,988	83,629
イタリア	1,308	50,276

ライオン誌9月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可 定価180円 送料実費76円
2008年(平成20年)8月20日発行 毎月1回20日発行 第51巻第3号
発行所 ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所 〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 Tel 03-3542-9571
印刷所 凸版印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい!

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466 Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lionsclubs.org/JA/content/lions_lcif.shtml